

香川県埋蔵文化財調査年報

平成元年度

1990.3

香川県教育委員会

例 言

1. 本書は、平成元年度の県内における埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。
2. 発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は図（P68）に示し、埋蔵文化財保護行政、調査の概況については一覧表（P4～11）に示した。
3. 本文頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。
4. 遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委等主体の調査の順とした。後者については原則として西から東の地域への順とした。
5. 香川県教育委員会事務局文化行政課職員が発掘調査指導を行った遺跡は、各市町の了解のもとに収録した。
6. 各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の1及び50,000分の1の地形図を使用した。
7. 各遺跡の執筆・編集は各調査担当者が行い、全体編集を県教育委員会文化行政課が行った。

目 次

1. 平成元年度埋蔵文化財保護行政の動向	1
2. 平成元年度埋蔵文化財保護行政、調査の概況	4
3. 発掘調査結果の概況	
(1) 国分台遺跡	12
(2) 台山古墳	13
(3) 堂之間遺跡	17
(4) 三反地遺跡	18
(5) 須ノ又塚	19
(6) 紫雲出山遺跡	22
(7) 吉原火上山遺跡	23
(8) 道下遺跡	26
(9) 西又遺跡	29
(10) 十瓶山窯跡群	30
(11) 屋島城跡	34
(12) 鴨部川田遺跡	35
(13) 養神遺跡	36
(14) 不動の滝遺跡	37
(15) 橋城跡	38
(16) 紫雲出山遺跡	41
(17) 丸亀城跡	42
(18) 讃岐国分寺跡	43
(19) 本村古墳群	44
(20) 離山古墳群	46
(21) 横立山東麓1号墳	49
(22) 平木1号墳	50
(23) 津・長池遺跡	51
(24) 天満・宮西遺跡	52
(25) 漆谷古墳群	54
(26) 弘福寺領田園関係遺跡	55
(27) 三谷石舟1号石棺	56
(28) 下屋遺跡	57
(29) 鴨部南谷遺跡	58
(30) 富田茶臼山古墳	59
(31) 大井4号・5号墳	60
(32) 粟地遺跡・釘が谷東遺跡	62
4. 徳島県埋蔵文化財調査センター発掘調査概況	
(1) 四国横断自動車道建設に伴う高松～普通寺発掘調査概況	64
(2) 国道バイパス建設に伴う発掘調査概況	66

1. 平成元年度埋蔵文化財保護行政の動向

1.はじめに

今年度は昨年度の瀬戸大橋開通に続き高松新空港が開港し、県下3大プロジェクトのうち2つが完成することとなった。このような高速交通網の整備は県民の生活環境に一層の利便さと充実をもたらす一方、レジャー施設をはじめとする各種開発を喚起する要因となることから、環境保全や文化財保護の立場からは開発との調整にさらに迅速適正化を求められることになった。このような状況の中で今年度も、種々の成果とともに多くの課題を残した年であったと言えよう。

2. 調査、保護体制の整備

県教育委員会では昨年度から引き続き、四国横断自動車道（高松～善通寺）や高松東道路建設に伴う発掘調査を財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施した。昨年度は急増する発掘調査事業に対応するため文化財専門職員を10名採用するなど調査体制の整備、充実に努めたが今年度は調査面積が若干減少したこともあり、調査体制に大きな変動はなかった。

市、町教育委員会では、高松市教育委員会が1名専門職員を増員したことに伴い、県下の配置状況は3市2町の計8名となった。

3. 開発の動向と埋蔵文化財の保護

過去5か年の開発事業種別の埋蔵文化財発掘調査状況は下表のとおりである。

事業種別	60		61		62		63		元	
	件数	面積(m ²)								
公 団	16	108,400	7	92,320	2	20,280	10	89,993	13	87,908
國道バイパス	0	0	3	976	5	14,260	10	120,114	5	41,950
県道、農道	2	550	3	5,150	0	0	6	2,012	9	2,298
圃場整備	0	0	1	6	0	0	5	1,129	10	3,065
その他の事業	1	6,000	4	1,327	1	42	2	605	4	1,393
市、町道	2	150	2	1,600	3	3,120	2	240	4	4,981
圃場整備	6	2,796	7	9,127	3	650	0	0	3	7,162
その他の事業	4	1,430	5	3,877	5	1,847	3	911	1	8
一般業者等	4	3,524	4	1,204	7	3,516	10	1,920	4	1,548
個人	3	420	3	328	4	3,180	4	123	5	4,153
合 計	38	123,270	38	115,915	30	46,895	52	217,047	58	154,466

※件数、面積ともに事前調査、確認調査合計の数字である。

今年度は四国横断自動車道（高松～普通寺）及び国道バイパス建設に伴う事業量が、昨年度よりかなり減少したため総調査面積は減少しているが、調査件数は若干とはいえ増加している。この点は県関係事業に伴う確認調査、事前調査件数が急増したことによるものである。また、昨年度より調査対象地が県内各地に拡散する傾向があり、全県的な開発事業の急増を物語るものと言えよう。

県教育委員会が財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施している四国横断道、国道バイパス建設に伴う発掘調査は、昨年度に次ぎ史上第2位の規模に及んでおり、依然として県下全発掘調査事業に占める割合は大きい。昨年度から急増した県関係事業に伴う対応状況は、今年度は本調査9、試掘調査16、分布調査8、立会調査7とさらに顕著な伸びを示している。

市町等関連事業については調査件数に大きな変動はないが、民間開発事業と併せ1件当たりの調査規模が大規模化する傾向がある。この点からも市町教育委員会における調査体制の整備、充実が望まれる。

今年度の開発事業に伴う埋蔵文化財保護の特徴の1つとして、工事実施中に遺跡を不時発見する事例が相次いだことが挙げられる。今年度は計9件を数え、昨年度が3件であったことからすればその伸びは顕著である。これらの中には周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地で行われた公共土木工事に伴うものが7件と圧倒的に多く、開発部局と埋蔵文化財保護局との連携及び事前協議の不充分さがその要因として挙げられる。今後は事業着手前のできる限り早い段階で、相互に密接な連絡を図るとともに、文化財保護局側が事前に試掘調査等を実施して埋蔵文化財の所在状況及びその範囲等について的確に把握しておく必要が認められる。

4. 行政主導の保護

今年度は新たに高松市西春日町に所在する鶴尾神社4号墳が国指定の「史跡石清尾山古墳群」に追加指定された。わが国でも最古に位置付けられる古墳としての重要性に基づくものであり、指定後公有地化されている。

史跡整備事業は、引き続き特別史跡讃岐国分寺跡、史跡有岡古墳群（王墓山古墳）及び紫雲出山遺跡の保存整備事業を実施している。讃岐国分寺跡では昭和62年度に設置した僧房跡覆屋内において、その間仕切り復元を行っている。王墓山古墳については、崩壊する虞れのあった横穴式石室の解体復元工事を実施した。また、紫雲出山遺跡では、竪穴住居及び高床倉庫を復元とともに、遺跡館を建設し出土品の展示等を行っている。

教育委員会が遺跡の内容、範囲等を把握するために実施した学術調査として、県教育委員会による台山古墳確認調査、高松市教育委員会による弘福寺領田園関係調査、丸亀市教育委員会による史跡丸亀城跡確認調査、大川町教育委員会による県指定史跡富田茶臼山古墳確認調査、財田町教育委員会による橋城跡確認調査等がある。

埋蔵文化財保護意識の普及に大きく寄与する発掘調査の現地説明会は、県教委による龍川五条

遺跡、高松市教委による天満・宮西遺跡、浴・長池遺跡、弘福寺領関係遺跡、丸龜市教委による丸龜城跡、大川町教委による富田茶臼山古墳、財田町教委による横城跡等で実施した。

5. 主な発掘調査成果

今年度の発掘調査による成果の大きな特徴は、弥生時代～古墳時代の集落、墳墓、古墳等に関する重要な発見が相次いだことであろう。弥生時代については高松市天満・宮西遺跡等の拠点集落の調査が行われる一方、同浴・長池遺跡、善通寺市龍川五条遺跡等では前期～中期の円形あるいは方形周溝墓が発見されるなど、古墳出現以前の墓制変遷を考える上で極めて重要な成果が得られた。また、坂出市西又遺跡、寒川町養神遺跡等中期に属する環濠集落の発見は、当時の集落構造を知る上で重要な意義を持っている。

古墳についても今年度は重要な発掘調査が相次いで実施された。前期古墳としては、圓分寺町唯一の前方後円墳である六ツ日古墳がある。中期古墳としては方墳であることが確認された台山古墳、四国最大の前方後円墳である富田茶臼山古墳等の範囲、内容等の確認調査が行われた。後期古墳は、山野塚古墳、平木1号墳等大型横穴式石室を持つ古墳の調査が行われる一方、漆谷古墳群、平岡古墳群等の小規模な群集墳の調査も実施している。また、高松市太田下・須川遺跡では、県内で初めて中期に属する竪穴住居が発見され注目を集めた。

古代以降については、窯跡及び城郭跡の調査を数多く実施した点に特徴がある。窯跡としては、綾南町内においてすべて1号窯跡、かめ焼谷2号、3号の範囲確認調査を行った他、奥下池南窯跡の発掘調査を実施している。城郭跡では、史跡丸龜城跡、横城跡等の内容確認調査を実施している。

6. おわりに

今年度も昨年度に引き続き急増する開発事業の対応に文化財保護局側が苦慮した一年であったと言えよう。また、全国的な考古学ブームの中で、遺跡の保存、活用における行政側の役割もその比重を次第に増しつつある。このような状況下において、開発との円滑な調整を図りつつ、さらに積極的な保護行政を推進していくことを、今後の文化財保護行政の指針とする必要がある。

開発事業との調整に際しては、市町教委における調査体制の整備は言うまでもないが、事前協議に必要な遺跡地図、台帳等の整備を行うとともに、さらに早期の事前協議を徹底していくことが緊急の課題と言えよう。また、文化財の保護と活用については徐々に遺跡整備に取り組む市町教委は増加しつつあるが、全般的な推進は未だその緒に就いたばかりの段階である。文化財保護が所有者及び県民の理解と協力を前提とする以上、遺跡の整備、活用などによる保護意識の普及にも今後努めていく必要がある。

平成元年度埋蔵文化財保護行政、調査の概況

番号	遺跡				調査	
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
1	太田下・須川遺跡	高松市太田下町	集落跡	弥生～近世	高松東道路(上天神～前田東)建設	建設省
2	前田東・中村遺跡	〃 前田東町	〃	縄文～近世	〃	〃
3	郡家原遺跡	丸亀市郡家町	〃	弥生～近世	四国横断自動車道(高松～善通寺)建設	道路公团
4	川西北・鍛冶屋遺跡	〃 川西町北	〃	中世・近世	〃	〃
5	龍川五条遺跡	善通寺市原田町	〃	弥生・中世	〃	〃
6	龍川四条遺跡	〃 〃	〃	古代・中世	〃	〃
7	三条番ノ原遺跡	丸亀市三条町	〃	弥生	〃	〃
8	郡家一里塚遺跡	〃 郡家町	〃	平安	〃	〃
9	飯山・木松	綾歌郡飯山町東坂元	散布地	弥生～中世	〃	〃
10	綾南奥下池南遺跡	〃 綾南町陶	生産遺跡	平安	〃	〃
11	国分寺下日名代遺跡	〃 国分寺町福家	集落跡	弥生・奈良・平安	〃	〃
12	中間西井坪遺跡	高松市中間町	〃	弥生・古代中世・近世	〃	〃
13	国分寺六ツ目古墳	綾歌郡国分寺町福家	古墳	古墳	〃	〃
14	国分寺六ツ目遺跡	〃	集落跡	中世～近世	〃	〃
15	飯野・C,D,E遺跡	丸亀市飯野町	古墳他	古墳・中世	〃	〃
16	鼠鳥城跡	高松市屋島西町	城館跡	不明	公衆便所建設	県
17	すべつと1号窯跡 かめ焼谷3号窯跡	綾歌郡綾南町陶	生産遺跡	平安	十瓶山工業団地造成	〃
18	伊喜末遺跡	小豆郡土庄町伊喜末	散布地	縄文・古墳	県道屋形崎小江瀬崎線拡幅	〃
19	千町遺跡	大川郡大川町富田中	集落跡	弥生・中世・近世	県常ほ場整備(大川)	〃
20	須本村又遺跡 原遺跡	三豊郡高瀬町下勝間	〃	中世	〃 (高瀬)	〃
21	三野町大見地区	三豊郡三野町大見	散布地	弥生・中世	〃 (三野東部)	〃
22	香南町由佐地区	香川郡香南町由佐	〃	弥生・古墳・中世	〃 (香南)	〃
23	前田西地区	高松市前田西町	包藏地	古墳～中世	高松東道路(上大神～前田東)建設	建設省

調査						
対処	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	文化財保護法
事前調査	県教委	24,170	元. 4. 1 ~2. 3. 31	鰐香川県埋蔵文化 財調査センター	建設省	57条の3 (98条の2)
〃	〃	9,320	元. 4. 1 ~2. 2. 28	〃	〃	〃
〃	〃	2,600	元. 4. 10 ~2. 3. 31	〃	道路公園	〃
〃	〃	12,208	元. 4. 10 ~8. 11	〃	〃	〃
〃	〃	12,300	元. 6. 26 ~2. 3. 31	〃	〃	〃
〃	〃	18,200	元. 7. 1 ~2. 3. 31	〃	〃	〃
〃	〃	1,300	元. 4. 10 ~2. 3. 31	〃	〃	〃
〃	〃	6,450	元. 4. 10 ~2. 3. 31	〃	〃	〃
〃	〃	2,200	元. 4. 17 ~5. 16	〃	〃	〃
〃	〃	2,900	元. 5. 22 ~7. 24	〃	〃	〃
〃	〃	11,350	元. 8. 19 ~2. 2. 28	〃	〃	〃
〃	〃	11,600	元. 8. 19 ~2. 3. 25	〃	〃	〃
〃	〃	900	元. 9. 1 ~12. 28	〃	〃	〃
〃	〃	5,600	元. 10. 1 ~2. 2. 28	〃	〃	〃
〃	〃	300	2. 3. 1 ~2. 3. 31	〃	〃	〃
確認調査	〃	8	元. 4. 12	県教委職員	県教委	80条
〃	〃	25	元. 5. 8 ~5. 12	〃	〃	98条の2 保存等について協議中
〃	〃	20	元. 6. 21 ~6. 23	〃	〃	工事実施
〃	〃	320	元. 6. 26 ~6. 27	〃	国・県	〃
〃	〃	440	元. 6. 21 ~6. 26	〃	〃	現状保存
〃	〃	250	元. 6. 27 ~6. 27	〃	〃	工事実施
〃	〃	400	元. 6. 30 ~7. 1	〃	〃	〃
〃	〃	250	元. 8. 17 ~8. 18	〃	〃	〃

平成元年度埋蔵文化財保護行政、調査の概況

番号	遺跡				調査	
	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
24	満濃町四条福家地区 糸	仲多度郡満濃町四 糸	包 藏 地	不明	一般国道32号満濃バイ バス建設	建設省
25	須須ノ又塚 須須ノ又遺跡 間	三豊郡高瀬町下勝 間	その他の墓、 集落跡	中世	県営ほ場整備(高瀬)	県
26	大川町石仏地区	大川郡大川町富田 中	包 藏 地	不明	〃 (大川)	〃
27	鴨部川田遺跡	大川郡度志町鴨部	〃	弥生	〃 (鴨部)	〃
28	三井之江地区	善通寺市吉原町	〃	不明	県営烟總曼荼羅寺2号 農道建設	〃
29	三反地遺跡	三豊郡高瀬町羽方	集落跡	中世	県道羽方豐中線改修	〃
30	堂之岡遺跡	觀音寺市原町	〃	近世	一般国道377号特殊改 良	〃
31	西又遺跡	坂出市川津町	〃	弥生	県道富熊字多津線改修	〃
32	道下遺跡	丸龜市金倉町	散 布 地	古墳 ・奈良	県道多度津丸龜線緊急 地方道路整備	〃
33	吉原火上山遺跡	善通寺市吉原町	包 藏 地	弥生	県営烟總曼荼羅寺1号 農道建設	〃
34	須ノ又塚	三豊郡高瀬町下勝 間	その他の 墓	中世	県営ほ場整備(高瀬)	〃
35	大川町富田中宮町 地区	大川郡大川町富田 中	包 藏 地	不明	〃 (大川)	〃
36	台山古墳	三豊郡豊浜町和田	古 墳	古墳	遺跡内容把握	県教委
37	六反地地区	坂出市川津町	包 藏 地	不明	中小河川大東川改修	県
38	元結木遺跡	坂出市川津町	集落跡	弥生 ・古墳	中小河川大東川改修	〃
39	蓑神遺跡	大川郡寒川町石田 東	〃	弥生	県道田面富田西線改良	〃
40	不動ヶ滝遺跡	三豊郡豊中町岡本	散 布 地	弥生	町道不動の滝線建設	町
41	下屋遺跡	大川郡長尾町昭和	集落跡	弥生 ・古墳	県道高松長尾大内線改 良	県
42	川西北鐵治屋遺跡	丸龜市川西町北	〃	弥生 ・中世	市道川西飯野線道路改 良	市
43	大井4・5号墳	大川郡大川町富田 西	古 墳	古墳	古墳の復元・整備	個 人
44	平木1号墳	高松市鬼無町	〃	〃	宅地造成	〃
45	鴨部南谷遺跡	大川郡度志町鴨部	集落跡	弥生	県営ほ場整備(鴨部)	県
46	浴・長池遺跡	高松市林町	〃	弥生 ～中世	高松東道路 (上大神～前田東)建設	建設省

調査						
対処	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	文化財保護法
確認調査	県教委	210	元. 8. 22 ～8. 23	県教委職員	国・県	98条の2
〃	〃	125	元. 8. 30 ～9. 1	〃	〃	事前調査実施・現状保存
〃	〃	100	元. 10. 5 ～10. 6	〃	〃	協議予定
〃	〃	420	元. 10. 23 ～10. 26	〃	〃	現状保存
〃	〃	12	元. 10. 26	〃	県教委	工事実施
事前調査	〃	256	元. 10. 30 ～11. 7	〃	県	57条の3 (98条の2)
〃	〃	190	元. 10. 30 ～12. 1	〃	〃	57条の6 (98条の2)
〃	〃	250	元. 11. 9 ～11. 28	〃	〃	57条の3 (98条の2)
確認調査	〃	615	元. 12. 18 ～12. 22	〃	県教委	98条の2
事前調査	〃	125	2. 1. 16 ～2. 1. 24	〃	県	57条の6 (98条の2)
〃	〃	50	2. 1. 29 ～2. 7	〃	〃	57条の3 (98条の2)
確認調査	〃	360	2. 1. 30 ～1. 31	〃	国・県	98条の2
測量調査	県教委	1,540	2. 2. 22 ～3. 2	〃	県教委	保存等について町教委指導
確認調査	〃	160	2. 3. 12 ～3. 13	〃	〃	工事実施予定
事前調査	〃	1,200	元. 8. 1 ～9. 30	岐阜県埋蔵文化財調査センター	県	57条の3 (98条の2)
〃	〃	30	2. 2. 14	県教委職員	県教委	57条の6 (98条の2)
確認調査	町教委	171	元. 6. 12 ～6. 30	町教委職員	町教委	98条の2
事前調査	〃	800	元. 5. 16 ～6. 5	町教委職員・ 県教委指導	県	57条の3 (98条の2)
〃	市教委	660	元. 5. 17 ～6. 27	市教委職員・ 県教委指導	市	〃
確認調査	町教委	3,510	元. 6. 30	町教委職員・ 県教委指導	町教委	遺跡整備実施予定
〃	市教委	400	元. 7. 5 ～8. 1	市教委職員	国・県・市	57条の2 (98条の2)
事前調査	町教委	600	元. 7. 3 ～8. 1	県教委職員	県	57条の3 (98条の2)
〃	市教委	8,000	元. 8. 15 ～2. 3. 20	市教委職員	国	工事実施予定

平成元年度埋蔵文化財保護行政、調査の概況

番号	遺跡			調査		
	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
47	紫雲出山遺跡	三豊郡託間町大浜	集落跡	弥生	遺跡整備	町教委
48	富田茶臼山古墳	大川郡大川町富田中	古墳	古墳	遺跡内容の把握	〃
49	雄山積石塚古墳群	坂出市林田町・高屋町	〃	〃	ホテル建設	業者
50	横立山東麓1号墳	高松市中山町	〃	〃	土砂採取	個人
51	日名代遺跡	綾歌郡国分寺町福家	集落跡	弥生～	町道日名代唐渡線拡幅	町
52	漆谷古墳群	高松市新田町	古墳	古墳	運動場造成	学校法人
53	橋城跡	三豊郡財田町財田上	城館跡	中世	遺跡整備	町教委
54	讃岐国分寺跡	綾歌郡国分寺町国分	社寺跡	奈良	水田コンクリート畦畔建設	個人
55	紫雲出山遺跡	三豊郡託間町大浜	集落跡	弥生	駐車場拡張	町
56	平岡城跡	三豊郡大野原町丸井	城館跡	中世	農村総合整備モデル事業	〃
57	天溝遺跡	三豊郡託間町託間	その他墓	〃	宅地造成	個人
58	天満・宮西遺跡	高松市松縄町	集落跡	弥生	太田第2土地区画整理	市
59	平岡古墳群	三豊郡大野原町丸井	古墳	古墳	農村総合整備モデル事業	町
60	平岡遺跡	三豊郡大野原町丸井	集落跡	弥生	〃	〃
61	栗地遺跡	小豆郡内海町安田	〃	〃	〃	〃
62	丸龜城跡	丸龜市一番丁	城館跡	近世	史跡環境整備	市教委
63	弘福寺領讃岐国山田郡田園比定地	高松市林町	散布地	奈良	学術研究	〃
64	丸山城跡	坂出市府中町	城館跡	中世	ゴルフ場建設	業者
65	本村古墳群	坂出市府中町	古墳	古墳	〃	〃
66	三谷石舟池1号石棺	高松市三谷町	〃	〃	堤防改修	三谷土地改良区
67	山野塚古墳	高松市鬼無町山口223	〃	〃	学術研究	香川大学
68	讃岐国分寺跡	綾歌郡国分寺町国分	社寺跡	奈良	遺跡整備	町

調査							
対処	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	文化財保護法	調査後の措置等
確認調査	町教委	7.6	元. 9. 19 ~ 9. 21	町教委職員	町教委	98条の 2	工事実施
〃	〃	366	元. 8. 1 10. 9	町教委職員・ 県教委指導	国・県・町	〃	遺跡整備実施予定
〃	市教委	300	元. 8. 3 ~ 10. 18	市教委職員	業者	〃	協議中
〃	〃	200	元. 8. 9 ~ 8. 21	〃	市教委	57条の 5 (98条の 2)	現状保存
事前調査	町教委	149	元. 9. 11 ~ 2. 3, 20	町教委職員	町	57条の 3 (98条の 2)	工事実施予定
確認調査	市教委	153	元. 9. 8 ~ 12. 5	市教委職員	学校法人	57条の 5 (98条の 2)	一部移築保存の 予定
〃	町教委	94	元. 9. 25 ~ 10. 4	町教委職員・ 県教委指導	町教委	98条の 2	遺跡整備実施予定
〃	〃	40	元. 10. 1 ~ 11. 10	町教委職員	〃	〃	工事実施
〃	〃	8	元. 11. 10 ~ 11. 25	〃	〃	〃	工事実施
〃	〃	1,012	元. 12. 1 ~ 12. 28	〃	〃	〃	事前調査実施
事前調査	〃	3	2. 2, 3 ~ 2. 4	〃	〃	57条の 5 (98条の 2)	工事実施
〃	市教委	4,000	元. 9. 1 ~ 2. 2, 28	市教委職員	市	57条の 3	工事実施予定
〃	町教委	850	2. 2 ~	町教委職員	町	57条の 3 (98条の 2)	〃
〃	〃	5,280	2. 2 ~	〃	〃	〃	〃
〃	〃	20	2. 3, 5	町教委職員・ 県教委指導	〃	〃	〃
確認調査	市教委	926	元. 10. 31 ~ 2. 3, 31	市教委職員	市教委	80条	遺跡整備実施予定
〃	〃	400	元. 12. 4 ~ 2. 3, 10	〃	国・県・市	98条の 2	研究活用
事前調査	〃	150	2. 1, 16 ~ 3. 30	〃	業者	57条の 2 (98条の 2)	工事実施予定
〃	〃	570	元. 3. 7 ~ 7. 31	〃	〃	〃	〃
〃	〃	10	元. 11. 14 ~ 12. 6	〃	市	57条の 5	工事実施予定
確認調査	香川大学	20	元. 9. 1 ~ 2. 3, 31	香川大学	香川大学	57条	研究活用
〃	町教委	90	2. 1. 8 ~ 2. 1	町教委職員	町教委	80条	遺跡整備実施予定

平成元年度埋蔵文化財保護行政、調査の概況〔現地踏査、立会調査の概況〕

番号	位 置	原 因	事業主体	事業面積	調査内容	調査の原因
1	大川郡大内町	県営ほ場整備 (大内)	県	26.1ha	分布・ 立会調査	大規模事業
2	木田郡三木町田中 (田中)	〃	〃	6.7ha	〃	〃
3	三豊郡高瀬町上高瀬	県道觀音寺善通寺 線特殊改良	〃	1,000m ²	立会調査	平池山根古墳隣接、隣接して県営ほ場整備
4	三豊郡高瀬町羽方	県道羽方豊中線改修	〃	1,600m ²	〃	三反地遺跡が隣接
5	三豊郡農中町笠田	県道財田豊中線道 路改修	〃	1,200m ²	分布調査	宮脇遺跡が隣接
6	高松市東植田町	県道塩江屋島西線 緊急地方道路整備	〃	6,000m ²	立会調査	竹元遺跡が隣接
7	坂出市高屋町	県道高松王越坂出 線道路改良	〃	4,200m ²	分布調査	高屋城跡が隣接
8	坂出市神谷町	県道鴨川停車場五色 台線道路局部改修	〃	3,000m ²	〃	牛子山遺跡が隣接
9	坂出市大屋富町	五色台園地事業 (歩道改良)	〃	365m ²	〃	柳谷遺跡が隣接
10	三豊郡詫間町大浜	四国のみち保全整備 事業(標識等設置)	〃	32m ²	立会調査	紫雲出山遺跡が所在
11	善通寺市吉原町	県営畑總碑殿農道 建設	〃	2,400m ²	分布調査	月信遺跡が隣接
12	善通寺市与北町	県営かんがい排水 事業	〃	10,800m ²	分布調査	上池遺跡
13	綾歌郡国分寺町国分	排水水管設工事	陸上自衛隊善 通寺駐屯地	8 m ²	立会調査	国分台遺跡が所在
14	木田郡三木町～大 川郡津田町	高松東道路(木田郡三 木町～大川郡津田町)	建設省	495,000m ²	分布調査	大規模事業
15	大川郡寒川町石田東	津田川総合開発(県道 田面富田西線改良)	県	20,000m ²	〃	賀神古墳群が隣接
16	高松市東植田町	水路改修	高松市東植田 土地改良区	375m ²	立会調査	下司庵寺が所在
17	觀音寺市高屋町	幼稚園舎増改築	市	1,600m ²	〃	高屋庵寺が所在
18	丸亀市一番丁	投光器更新・新設	市	300m ²	〃	丸亀城跡が所在
19	坂出市府中町	道路路側復旧工事	市	L = 8m	〃	〃

調査主体	調査期間	担当	調査結果の概要
県教委	元. 6. 14 元. 9. 21	県教委職員	遺構・遺物認められず。
〃	元. 5. 31 元. 7. 17	〃	〃
〃	元. 5. 19	〃	古墳に影響なし。厚い洪水堆積層が観察される。遺構・遺物認められず。
〃	元. 5. 16	〃	遺物包含層やビットなどの遺構検出、須恵器片、土師器片出土。
〃	元. 5. 11	〃	丘陵斜面、遺物の散布認められず。
〃	元. 12. 5	〃	包蔵地確認されず。
〃	元. 5. 12	〃	標高約2mの水田地帯、条里制地割遺存、中世遺物散布。
〃	元. 5. 12	〃	標高約4mの水田地帯、条里制地割遺存。
〃	元. 7. 27	〃	柳谷遺跡影響なし。谷底および尾根中腹、遺物の散布認められず。
〃	元. 10. 17	〃	遺構等検出されず。遺物は土器小片等若干出土。
〃	元. 6. 12	〃	平成2年度の工事予定地に濃密な遺物散布。
〃	元. 6. 12	〃	既存水路の改修、氾濫原。
〃	元. 7. 18	〃	2次的盛土による演習用道路掘削、翼状剝片等の石器採集。
〃	元. 4. 26～元. 4. 27, 2. 3. 8	〃	全線の平地部と志度鶴部の丘陵部を対象に実施。平地部13箇所、丘陵部4箇所試掘対象。
〃	2. 1. 26	〃	古墳に影響なし。その他の包蔵地確認されず。
市教委	元. 5. 24	市教委職員	既存水路の改修、遺構・遺物確認されず。
〃	元. 8. 18 ～元. 9. 13	〃	旧園舎の基礎取壟工事および新園舎の基礎工事に立会調査、遺構・遺物確認されず。
〃	元. 12. 5	〃	遺構・遺物確認されず。
〃	2. 2. 28	〃	遺物包含層検出、平安時代の軒丸瓦、平瓦片出土

国分台遺跡

1. 所在地 稲穂郡国分寺町国分字山伏滝2909-1
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成元年7月18日
4. 調査面積 18m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過

陸上自衛隊演習場内にそのほとんどが含まれている国分台遺跡の保護については、高松防衛施設事務所および陸上自衛隊善通寺駐屯地と定期的に協議を行っている。今年度の公共土木工事の照会で把握した演習場内の排水管理設工事については、平成元年5月29日に協議し、これを受け6月29日に現地視察を行ったところ、工事予定地の演習用道路は2次的な盛土により敷設されたものと判断された。そして7月18日に、土層の堆積状態の確認、石器の採集を目的として、工事実施に当って立会調査を実施した。

7. 調査結果の概要

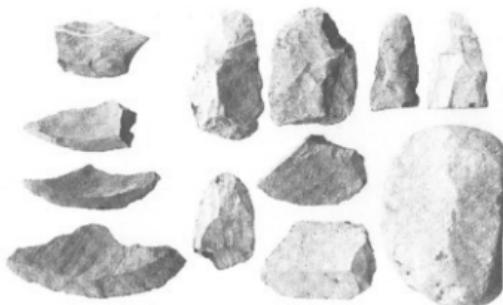
調査対象地は小さな谷筋を塞ぐように敷設された演習用道路部分で、調査範囲は延長9m、幅2m、深1.6m、面積18m²である。掘削断面の観察では地表から150cmは黄色粘質土6に対してサメカイト塊石4の割合の土石混合層で、現代の廃物や植物の残骸が混り、その下10cmは谷水が上方から押流して堆積した砂層、掘削最下部が本来の地表面であった。道路敷設に当ってそのための土石をどこから運んだかは不明であるが、近接地からと推定される。また掘削土石総量約28m³の内の概ね1/5から石器14点を採集した。



第1図 遺跡の位置

第2図 採集した石器

左下の翼状剣片長11.5cm
右下の砂岩は駁石か



台山古墳

1. 所在地 三豊郡豊浜町和田院内
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年2月22日～3月2日
4. 調査面積 (測量)1,500m² (発掘)40m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 國木健司
6. 調査の目的及び方法

台山古墳はこれまで全長約40mの前方後円墳の可能性があるとされ、円筒埴輪、形象埴輪の出土も伝えられていた。しかしながら、現状では明確な墳丘が認められず、古墳の所在も現認し難い状況であった。県内でも最西端にある古墳であり、その墳形、規模等の確認が本県の古墳文化研究上重要な位置を占めるものと考えられたことから、今年度の重要遺跡確認調査として台山古墳の測量及び試掘調査を実施することとした。

7. 調査結果の概要

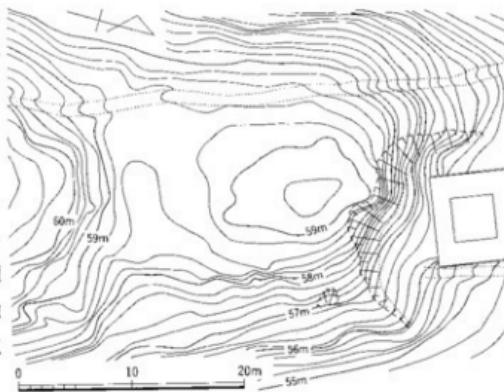
台山古墳は前山から北に派生する丘陵先端付近に位置し、周囲の平野部との比高は約30mをはかる。墳丘北裾付近は社殿建立の際に掘削を受け、また、墳丘部分は、南北25m、幅20mの平坦地形をなしている。この地区以南は比高差2.5mの急な法面を挟んで、やはり延長40mにわたる平坦地形が所在する。また、以北の社殿部分も比高差4mをはかり平坦地形を形成している。

測量調査では、明確な墳丘、特に前方部の存在を想定させる成績は得られなかった。

試掘調査は第3図のとおりトレンドを設定して行った。1トレでは0点より西へ約9mの地点から以西にゆるやかな落ちが認められ、約11mの地点付近で人頭大の塊石を3段傾斜面に沿って積み上げた遺構を現地表下約60cmで検出した。石積み状況及び石積み以西が平坦面を呈すること等から、墳丘基底部付近の葺石と

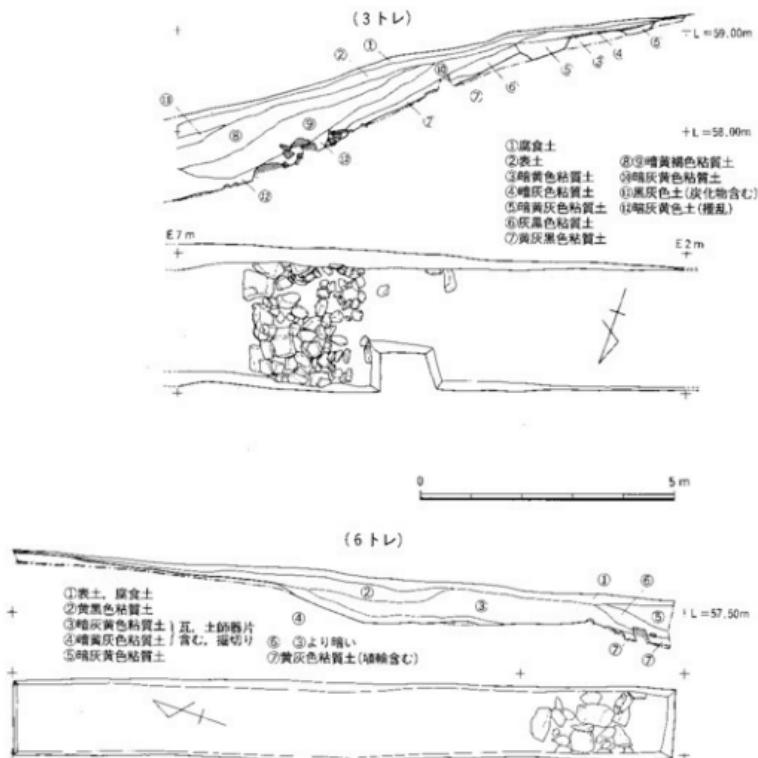


第1図 遺跡の位置



第2図 墳丘測量図

考えられる。墳丘頂上部に設定した2トレでは明確な遺構は検出されなかったが、3トレではやはり中心より東へ5～7mの範囲内に葺石を検出した。トレンチ内の北半分は面を捕えた様子が伺えたが、南半部は攪乱を受け、旧状を留めていない。また、基底部はやや大きめの方柱状石を小口を揃えて設定している。葺石は基底部付近で現地表下約1mの深さで検出したが、覆土中には多量の塊石とともに多量の瓦、土師器等の遺物が出土した。4トレからは、焼土面、ピット等を検出したが、古墳に関する遺構は検出されなかった。5トレでは葺石は検出されなかったが、ほぼ直角に屈曲する基底部を検出した。6トレからは、S6m付近で葺石を検出し、その基底部付近から埴輪片が集中して出土している。また、葺石以北は約3mにわたって比高差約30cmの溝状の落ちを検出した。最下層から瓦片、土師器片が出土しており、後述する城関連の施設（堀切



第3図 3, 6トレ平・断面図

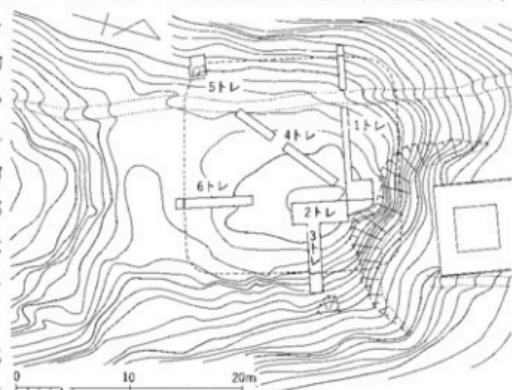
り)と推定される。

出土遺物は、円筒埴輪、朝顔形埴輪、土師器、瓦片等である。第4図1~3は円筒埴輪片である。1は口縁部を外側に屈曲させ、タガ状の端部を形成している。外面タテハケ、内面はナナメハケ。2は方形に近いタガを持ち、外面タテハケ、内面は荒いヨコハケを施す。3は底部片で、外面調整はタテハケであるが、底部付近は板ナデを施している。4は朝顔形埴輪片で、内外面とともにヨコハケである。

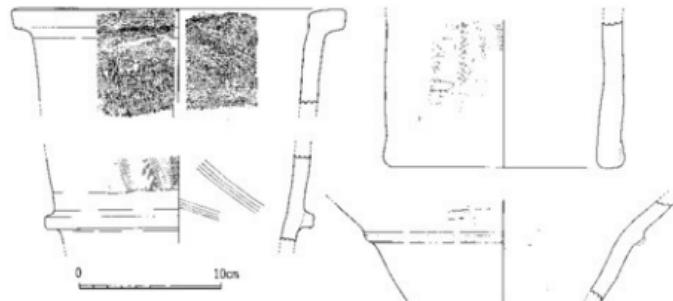
また、今回の発掘調査では、1・3両トレンチの崩壊した葺石群中並びに6トレンチの溝状構内より多量の瓦、土師器等が出土した。土師器は小皿、杯等であり、底部は静止あるいは回転系切りである。瓦は右巻三巴文軒丸瓦の他、布目瓦等が出土している。

8. まとめ

今回の確認調査では古墳の内容が判明し、また、地形、出土遺物等から後世の遺跡が所在することも明らかとなった。古墳の墳形については、5トレで直角に屈曲する基底部を検出しており、6トレで検出した葺石の延長部分をトレンチ棒探査したところ、直線的に延びることが確認されたこと等からみて、方墳であるものと考えられる(第4図)。規模については1辺約19mをはかり、高さは3トレ基底部より約1.8mをはかるが、埴丘の現状からみて上部はかなり削平されているものと推定される。また、1・3・6トレンチの基底部高は約0.4mの比高差内に納まり、ほぼ同一レベルで



第4図 墳丘復元図

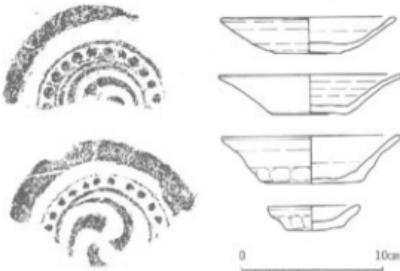


第5図 出土埴輪実測図

かつ明瞭に基底部を設定するという墳丘築成上の革進が認められる。時期的には、出土埴輪がタテハケを基調とする外面調整を施し、タガの断面形も正方形に近いものであること等からみて、5世紀初頭頃に位置付けられよう。主体部については不明である。

また、その他の遺物については瓦が鎌倉時代に、土師器が中世末期に位置付けられる。後者については、古墳部分を含む周辺が4基からなる郭状地形を呈すること等からみて中世山城が所在した可能性を示唆するものである。

台山古墳は5世紀初頭に築造された方墳であることが明らかになったが、眼前に海浜部を見渡す丘陵に位置することから、海上交通を基盤とした勢力の首長墓と推定される。また、従来古墳文化においては後進性が指摘されていた三豊地域において、当古墳は5世紀中葉に築造されたと推定される観音寺町丸山・青塚両古墳に先行する屈指の有力墳であり、同地域の古墳文化の発展を知る上で極めて重要な位置を占める古墳である。



第6図 出出土器実測図



第7図 墳丘の現状



第8図 1トレ葺石検出状況



第9図 3トレ葺石検出状況



第10図 6トレ葺石検出状況

堂之岡遺跡

- 所在地 観音寺市原町1458
- 調査主体 香川県教育委員会
- 調査期間 平成元年10月30日～12月1日
- 調査面積 190m²
- 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
- 調査に至る経過

県土木部道路課を事業主体とする国道377号道路整備事業と埋蔵文化財の保護については、昭和63年度に一部工事に当って立会調査を実施している。今年度は家屋退去地区的工事に当って6月9日に実施した立会・試掘調査により地下遺構の所在を確認した。このこ

とについては遺跡の発見通知が提出され、その後の協議を経て上記の期間で事前調査を実施した。

7. 調査結果の概要

調査地は低丘陵の東側斜面部の家屋退去地であり、土層の堆積状況は本来のものをとどめていなかったが、遺構はピット、土坑、溝などが多数検出された。しかし、調査面積が狭いものもあってこれらの遺構の全体像を把握するまでは至らなかった。遺物は近世陶磁器、土師器、中世土師器、古墳時代須恵器等が出土し、その量は28ℓ入コンテナ3箱である。

8.まとめ

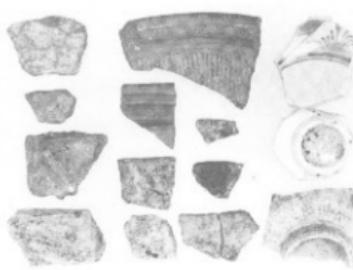
検出した遺構は出土遺物から18世紀を中心とする時期のものと考えられ、その性格付けを行う場合の手縊りとしては堂之岡の地名やかつて付近に寺小屋があったとの伝承がある。



第2図 遺構完掘状態



第1図 遺跡の位置



第3図 溝出土遺物

三反地遺跡

1. 所在地 三豊郡高瀬町羽方三反地
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成元年10月30日～11月7日
4. 調査面積 256m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 國木健司
6. 調査の原因 県道羽方豊中線道路改修
7. 調査結果の概要

現行地割りにより5地区に調査区を細分し調査を行った。I区では遺構・遺物とも検出していない。II区ではピット群、溝状遺構等を検出した。遺物は石鏃、須恵器、土師器等である。III区からは小ピット群、溝状遺構1

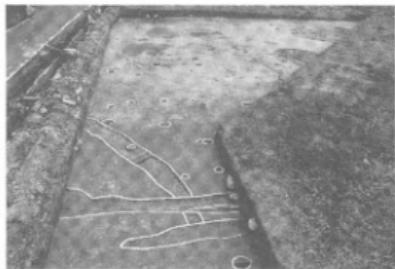
条等を検出している。出土遺物が土師器細片のみであり、時期は不明である。IV区からは平行に走る小溝状遺構を多数検出している。V区は検出した遺構はピット群のみであったが、瓦器、土師器片が多数出土している。

8. まとめ

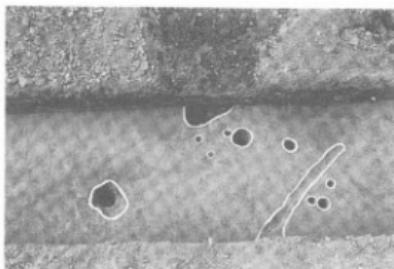
道路拡幅工事に伴う事前調査であり、幅狭の調査区であったことから遺跡の全容は把握できなかったが、出土遺物からみて三反地遺跡が13世紀後半頃の集落遺跡であることを中心とすることが判明した。当該時期の遺跡はVI区周辺に展開しているものと推定される。また、II区で石鏃、須恵器（古墳時代後期～奈良時代）等が出土しており、II区周辺にそれ以前の遺跡が所在している可能性もある。なお、平成元年度に県教育委員会より報告書が刊行される予定である。



第1図 遺跡の位置



第2図 2区完掘状況



第3図 5区完掘状況

須ノ又塚

1. 所在地 三豊郡高瀬町下勝間824
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年1月29日～2月7日
4. 調査面積 50m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過

県農林部土地改良課を事業主体とする平成元年度県営は場整備事業に伴い、香川県教育委員会が国庫補助を受けて実施した詳細遺跡分布調査により新たに発見された遺跡である。同調査では5月24・25日の分布調査でその所在を確認し、8月31日から9月1日までの試掘調査で埋葬施設であることが判明した。その後土地改良課との間で遺跡の保存等について協議した結果、記録保存することで協議が整い、上記の期間で事前調査を実施した。

7. 調査結果の概要

塚は田を境とするあぜ道上に位置し、長径約7m、短径約3m、高さ約75cmの墳丘状の高まりをとどめ、その平面形は東西に長い楕円形状であった。そして墳丘上には供養塔の一種である五輪塔の石材が3～4基分散在していた。発掘調査は墳丘に十字の土層観察用のあぜを残して、人力により掘削を進めた。土層の堆積は墳丘頂部から約50cmは人頭大以下の河原石と遺物を数多く含む褐色土、以下20～30cmは黄灰褐色土（無遺物）、頂部から約80cmで黄色粘質土（地山）となる。墳丘の東に片寄った黄色粘質土上面で検出された墓壙は長さ約140cm、幅約60cm、深さ約15cmで、その両端の上部には40cm大の石が対になって検出された。また墓壙検出面より約15cm上を基底とするほぼ円形の石列が発見された。その他に浅い炭化物土坑や溝が検出された。

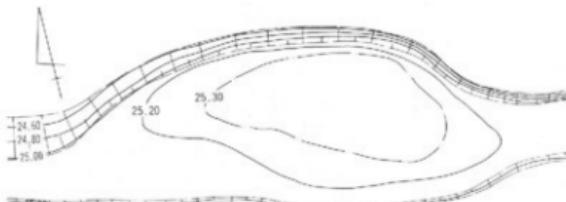
遺物は在地の土師器の他に備前焼、龜山焼、魚住焼などが28ℓ入コンテナ15箱と五輪塔石材10余点が出土した。その出土位置は墳丘上部の褐色土からのもので、墓壙からの遺物は出土しなかつた。

8. まとめ

調査の結果、塚本来の形状は後世の開墾等によりほとんど失われているものの、墓壙はその上位の2個1対の石の検出状態などから後世の手が加えられたとは考え難い。また出土遺物は周辺の遺構等が開墾により破壊を受けた際、ここに盛り集められたものと考えられる。塚の年代は墓壙からの出土遺物が無いため特定し難いが、中世のものである。

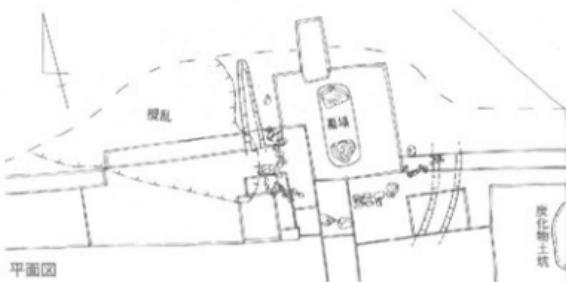


第1図 遺跡の位置



墳丘測量図

第2図 墳丘測量図、平・断面図



平面図



1 暗色土(埴丘)、他、焼物
2 黄灰褐色土(埴丘)
3 黄灰褐色土(埴丘底土)
4 黄褐色土(埴丘底土)
5 粘性土
6 粘性灰褐色土(埴丘)
7 灰褐色土
8 黄褐色粘土(埴丘上)



第3図 草刈り後の塚



第4図 墓塚検出状態



第5図 墓塚完堤状態

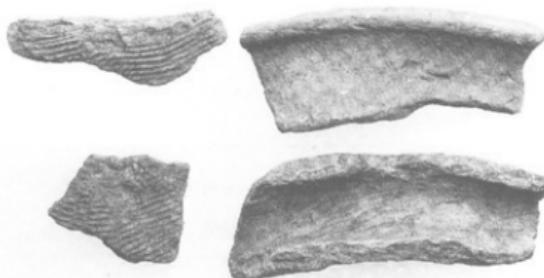


第6図 墓塚と集石

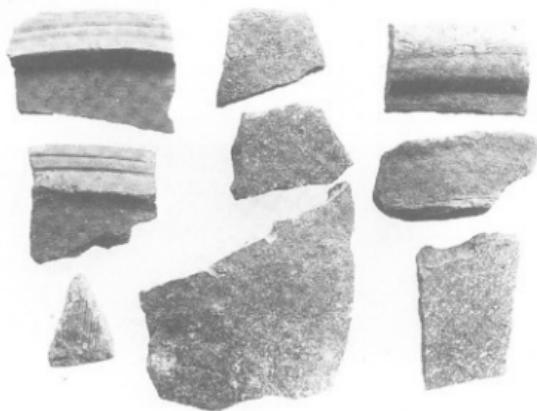
第7図 塚墳丘出土遺物
土師器鍋・釜



第8図 塚墳丘出土遺物
亀山焼と魚住焼



第9図 塚墳丘出土遺物
備前焼



紫雲出山遺跡

1. 所在地 三豊郡院町大字大浜乙451-1
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成元年10月17日
4. 調査面積 7.5m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過

県環境保健部環境自然保護課を事業主体とする四国のみち保全整備事業（標識・ベンチ等を24基設置）に伴い、史跡の現状変更申請および埋蔵文化財発掘の通知が提出され、遺跡の状況と工事の内容を勘査した結果、頂上部の10基については工事立会、その他については慎重工事が適当と判断された。

7. 調査結果の概要

立会調査の対象とした10基（10箇所）については既往の掘削の範囲内および既往の造成等による2次的堆積の範囲内で工事が実施され、遺構等の所在は確認されず、また遺物は土器細片が出土したのみである。



第1図 遺跡の位置



第3図 第4調査地点土層断面



第2図 調査位置図

吉原火上山遺跡

1. 所在地 善通寺市吉原町字火上山1981
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年1月16日～1月24日
4. 調査面積 125m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過 県農林部土地改良課を事業主体とする県営畠地帯総合整備事業善通寺西部地区の曼荼羅寺1号農道建設工事中に遺跡が発見され、協議の結果、上記期間で事前調査を実施した。
7. 調査結果の概要

遺跡は火山上の北麓、標高約115m、平地と

の比高約100mに位置する。調査は農道建設用地内に南北に細長い調査区を設定し、そのほぼ中程には土層観察のためのあぜを残した。土層堆積は安山岩の角礫を含む表土(厚約40cm)、疊混黒褐色土(約30cm、遺物包含層)、黄白色砂質土(地山)である。遺構は遺物包含層下からピット、溝、土坑等が検出された。遺物は包含層から弥生時代中期～後期の土器、サヌカイト片を主体とし、その他に中世の土師器、陶器等が少量出土した。その総量は28ℓ入コンテナ3箱である。

8. まとめ

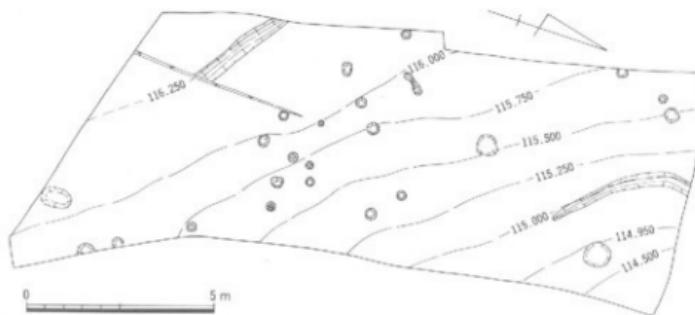
善通寺北西部の我拝師山、火上山の北麓からはかつて銅鐸、銅劍が出土し、広範囲に遺跡が広がることは知られていたが、今回の調査によりそれらの内容の一端を把握することができた。今後周辺域の開発に対する適切な埋蔵文化財の保護のためには、関係機関への周知が必要である。



第1図 遺跡の位置

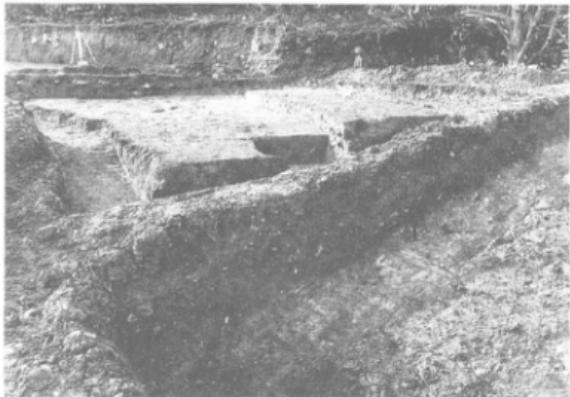


第2図 遺跡遠景



第3図 遺構配置図

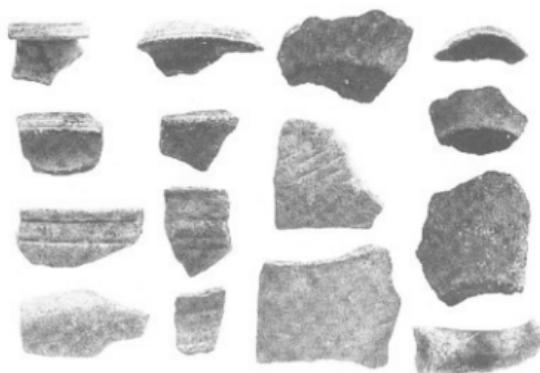
第4図 遺物包含層断面
(北から)



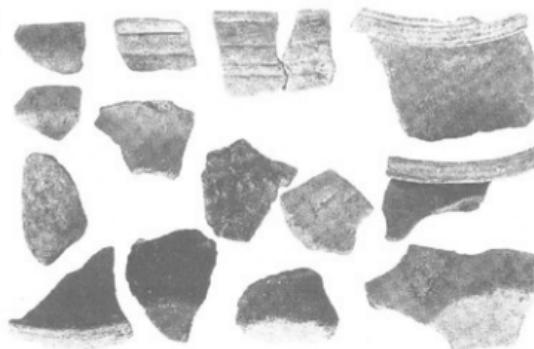
第5図 遺構完掘状態
(北西から)



第6図 南部出土弥生土器



第7図 北部出土弥生土器



第8図 中世遺物



道下遺跡

- 所在地 丸亀市金倉町道下
- 調査主体 香川県教育委員会
- 調査期間 平成元年12月18日～12月22日
- 調査面積 615m²
- 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
- 調査に至る経過

平成元年度の公共土木工事照会により周知の埋蔵文化財包蔵地である道下遺跡の範囲内において県道多度津丸亀線が建設されることを把握したが、道路建設に先立って遺跡の内容を確認し、事業主体である県土木部道路課との遺跡の保存等について協議するための資料を得ることを目的に上記の期間で試掘調査を実施した。

7. 調査結果の概要

調査は県道建設予定地である瓢池から市道中津田村線までの延長約500m、道路幅16m、工事面積約8,000m²を対象とし、同予定地内に13箇所のトレンチを設定した。トレンチは幅約2m、総延長約300mである。土層の堆積は現耕作土、砂質土、黄白色粘質土（地山）で、調査対象地の西部に微高地が所在する。遺構は地山上面で溝、ピットが検出された。遺構の遺存状態は西部では比較的良好であるが、東部では後世の削平等のためか不良である。遺物は西部の遺構から弥生時代末～古墳時代初頭の土器や古代の須恵器が出土した。また、調査対象地周辺は所謂旧阿野郡条里とされる方格地割が残るが、これに平行する溝も検出された。

8. まとめ

調査の結果、調査対象地の西部の微高地上には集落跡が所在する可能性があり、道路建設にあたってはトレンチ①～⑥の範囲および条里制の坪境に相当する箇所については適切な保護措置を講じる必要がある。

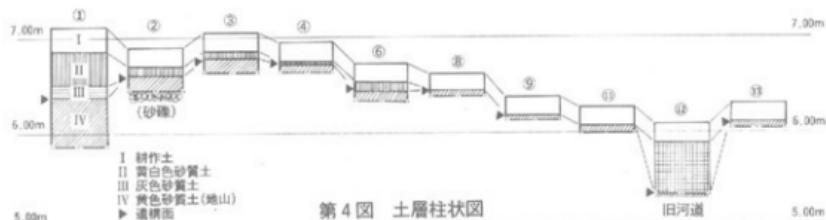


第1図 遺跡の位置

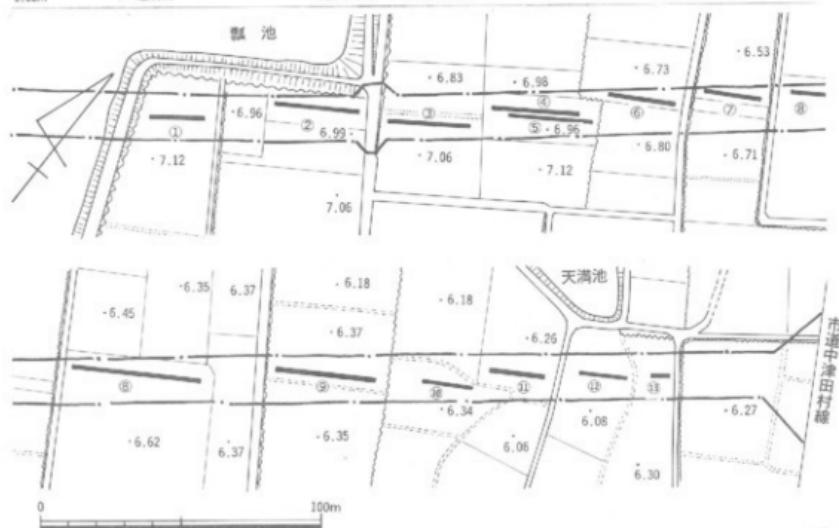


第2図 調査対象地遠景

第3図
トレンチ⑥
遺構検出状態
交差する溝



第4図 土層柱状図



第5図 調査トレンチ配置図

第6図
トレンチ③遺構検出状態
溝とピット



第7図
トレンチ②遺構検出状態
溝



第8図
トレンチ②溝出土物



西又遺跡

1. 所在地 坂出市川津町
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成元年11月9日～11月28日
4. 調査面積 250m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 國木健司
6. 調査の原因 県道富熊宇多津線道路改修
7. 調査結果の概要

5区の調査区を設定して調査を行った。1区では環濠と推定される幅3～5m、深さ0.6mの溝状遺構(SD06)等を検出した。SD06は最下層付近から多量の弥生土器等の遺物が出土した。2区からは小溝状遺構3条、3・4区からは多数のピット群を検出している。5区はSD06の延長部を検出している。SD06から出土した遺物は弥生時代前期後葉から中期前葉にかけての土器及び石鏃、石斧、砥石等の石器類である。

8. まとめ

幅狭の道路拡幅工事に伴う事前調査であったため、遺跡の全体像は把握できなかったが、西又遺跡が弥生時代前期後葉から中期前葉にかけての環濠集落であることが判明した。前期～中期に継続する集落遺跡は県内でも数少なく、また、これまで出土量の少なかった中期前葉の土器がまとまって出土したことから注目される遺跡である。なお、平成元年度に県教育委員会より概報が刊行される予定である。



第1図 遺跡の位置



第2図 5区 SD06遺物出土状況



第3図 4区ピット群検出状況

十瓶山窯跡群

- 所在地 綾歌郡綾南町陶比山田東
- 調査主体 香川県教育委員会
- 調査期間 平成元年5月8日～5月12日
- 調査面積 25m²
- 調査担当者 文化行政課技師 國木健司
- 調査に至る経過

十瓶山と火ノ山に挟まれた谷部の県有地内には、県指定史跡すべっと1号窯跡を含む8基の窯跡が所在する。当該地の開発事業は過去数度の計画変更があったが、事前協議の結果、昭和53年にすべっと3号窯跡、昭和58年にすべっと2号、4号窯跡及びかめ焼谷1号



第1図 遺跡の位置

窯跡の発掘調査が実施されている。今回、改めて当該地区に県土地開発公社を事業主体とする工業団地造成事業が計画されるに及び、現状保存される予定であったすべっと1号窯跡、かめ焼谷2号、3号窯跡について、その遺跡範囲を確認し事前協議資料を得るとともに、他の遺跡の有無を確認することを目的として上記日程で確認調査を行った。

7. 調査結果の概要

(1) すべっと1号窯跡

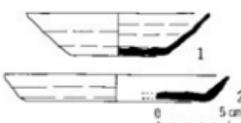
昭和42年度に発掘調査を実施し、翌年県指定史跡に指定している。今回の調査は前回確認されなかった灰原の有無を確認する目的で実施したものである。

窯体は比高約25mをはかる急傾斜地の中腹より上方に位置する。窯体付近に設定したトレントでは灰原は確認されなかつたが、傾斜地を降り切った谷底の池付近で灰層の広がりを確認した。灰層の厚さは10～30cm、範囲は南北10～15m、東西15mの約200m²である。傾斜部では確認されていないことから、流失した灰原の堆積層である可能性が高い。

灰層中から須恵器杯、皿、壺片等が出上している。2点のみ図化した。杯は平底で復元口径12.9cm、器高3cmをはかる。体部は直線的に大きく開き、底部はヘラ切りである。皿は復元口径15.6cm、器高1.9cmをはかる。

(2) かめ焼谷2号窯跡

緩傾斜部に位置する。灰原が露頭し、須恵器壺片の散布



第2図 すべっと1号出土土器

も顕著であることから、伐開により概ねの遺跡範囲は想定される。従って、試掘調査は造成境界付近の窯跡西側及び南側の4か所のみで行った。

1トレンチは東端付近の1mの範囲で灰層を含む厚い須恵器の堆積層が検出されたが、以西の3mは須恵器の出土は極めて稀少であった。2~4トレンチは須恵器包含層は確認されたものの、灰層は検出されなかった。上方からの流れ込みによるものと考えられる。

須恵器は壺片ばかりがトレンチ内より出土した。口縁部はくの字形に外反するが、1・2は直口気味である。頸部は斜めの格子タタキをヨコナデし、体部は内面に格子タタキが明瞭に残る。口縁端部の拡張はないが、沈線のみられるものもある。

(3) かめ焼谷3号窯跡

2号窯同様伐開により概ねの

遺跡範囲は把握されたのでトレンチ調査は南西端部のみで行った。このトレンチを斜行する形で灰原を検出した。

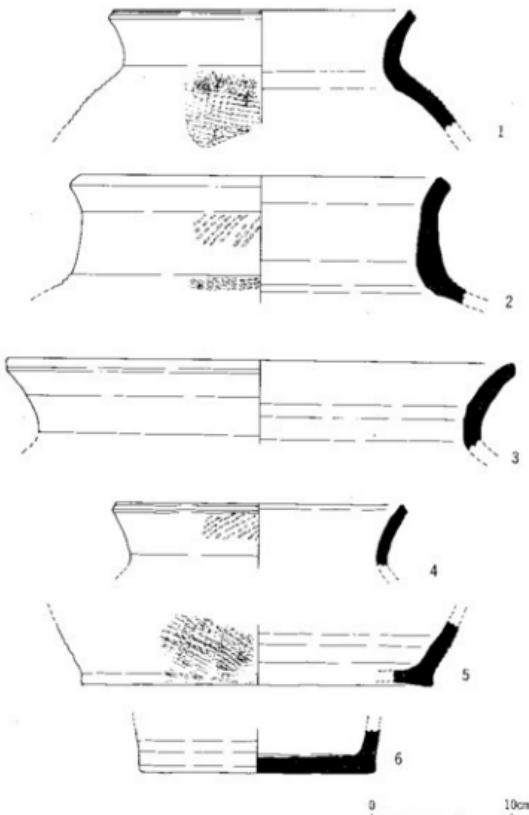
出土須恵器は壺、壺片である。壺は口径30~32cmの大型品と、17cmの小型品の2者がある。壺は口径11.8cmをはかり、端部を下方に屈曲させ拡張している。

その他、3か所の試掘調査区では、遺構・遺物ともに検出されなかった。

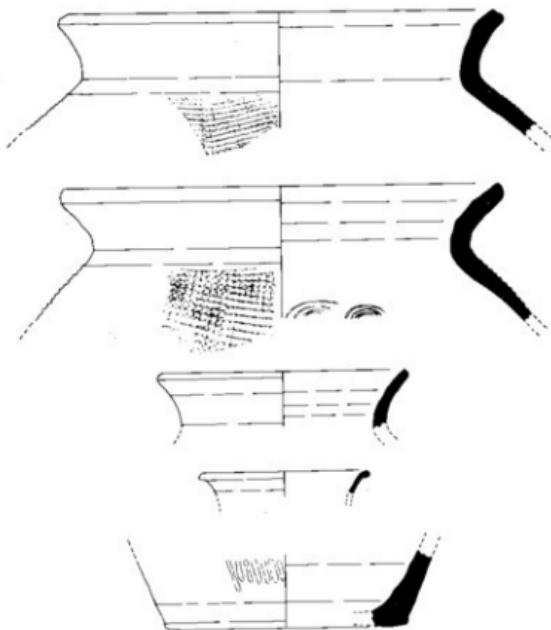
8.まとめ

伐開、トレンチ調査を中心とした確認調査であったが、3基の窯跡について概ねの遺跡範囲を想定し得た。(第5図)

すべつと1号窯跡については、從来灰原の存在が疑問視されていたが、今回谷底部で流出によ



第3図 かめ焼谷2号出土土器



第4図 かめ焼谷
3号出土土器



第5図 各窯跡の範囲

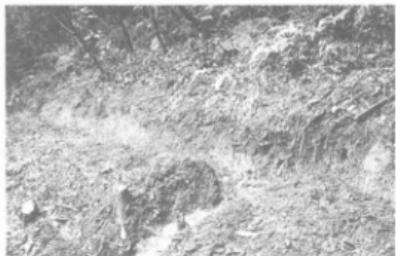
ると考えられる灰の堆積層を確認したことから、本来灰原が窯体周辺の傾斜部に存在したものと考えられる。

かめ焼谷 2 号・3 号窯跡については、いずれも以下の 2 点により重要な遺跡であることは明らかである。

- ① いずれも広大な灰原と膨大な遺物量を有していること。
- ② 時期的には 13 世紀後半頃と推定され、70 余基からなる県下最大の窯業地帯である陶地区でも最も新しい須恵器窯跡である。従って、同地区の窯業の盛衰と新たな生業への移行を知る上では欠くことができない窯跡であること。

この 2 基の窯跡は事前協議により窯跡範囲全域が現状保存される予定である。

(註) かめ焼谷 2 号窯跡は森浩一・伊藤勇輔「香川県綾南町十瓶山北麓窯跡調査報告」ではかめ焼谷窯跡、渡部明夫「讃岐国の須恵器生産について」(『鏡山猛先生古稀記念古文化論攷』)ではかめ焼谷 3 号窯跡として紹介されている。今回、過去の事前協議の中で使用された名称を踏襲し、以上のとおり名称を設定した。



第 6 図 すべっと 1 号灰層検出状況



第 7 図 かめ焼谷 2 号須恵器散布状況



第 8 図 かめ焼谷 2 号 1 トレ須恵器出土状況



第 9 図 かめ焼谷 3 号灰原検出状況

屋島城跡

1. 所在地 高松市屋島西町字屋島
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成元年4月12日
4. 調査面積 8m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過

県環境保健部環境自然保護課を事業主体とする、屋島北嶺園地における既設公衆用便所の老朽化に伴う新築工事については、昭和63年度の公共土木工事照会で把握した。その後の協議を経て事前に建設予定地の埋蔵文化財の包蔵状況を確認し、その適格な保護を図ることを目的として試掘調査を実施した。

7. 調査結果の概要

屋島北嶺山上には東西最大幅約200m、南北約750mにわたりほぼ平坦な地形がみられ、その南端部に位置する調査対象地の標高は約285mである。調査は建設予定地（面積約28m²）全域を対象に、本体部に十字トレンチと北側便道埋設部に1箇所トレンチを設定して行った。土層の堆積は、I 園地整備のための粗砂層（厚10cm）、II 旧表土（2cm）、III 黄褐色砂質土（15cm）、IV 淡紫灰味褐色砂質土（25cm）、V 淡青灰味黄色粘質土（38cm）、VI 灰味黄色粘質土（70cm）、VII 疏層（15cm以上）である。遺構は検出されなかったが、III層から須恵器、土師器の小片が出上した。

8.まとめ

調査の結果、公衆用便所新築工事については、埋蔵文化財保護上支障がないと考えられるが、今回の調査を実施した北嶺および南嶺の山上には埋蔵文化財が所在する可能性があるので、今後同地区的土木工事等については事前にその所在等について確認する必要がある。



第1図 遺跡の位置



第2図 調査地遠景

鴨部川田遺跡

- | | |
|------------|-------------------|
| 1. 所在地 | 大川郡志度町鶴部川田 |
| 2. 調査主体 | 香川県教育委員会 |
| 3. 調査期間 | 平成元年10月23日～10月26日 |
| 4. 調査面積 | 420m ² |
| 5. 調査担当者 | 文化行政課主任技師 岩橋 孝 |
| 6. 調査に至る経過 | |

県農林部土地改良課を事業主体とする平成元年度県営は場整備事業に伴い、香川県教育委員会が国庫補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査により新たに発見された遺跡である。調査はは場整備事業予定地である鴨部平野の南端部約25haを対象に、15箇所に試掘調査トレンチを設定して行った。

7. 調査結果の概要

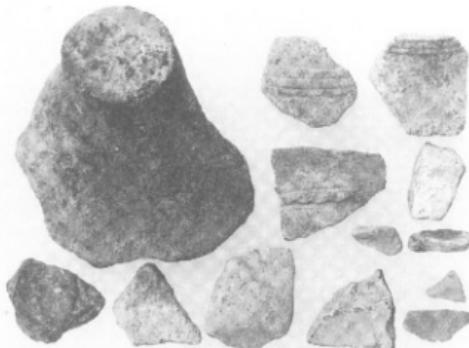
調査対象地のうち鴨部川東岸には微高地が観察され、川田の集落はこの上に立地するが、川田の集落の北方のトレンチにおいて地表下約130cm（標高約7.3m）で、弥生時代前期の土器を主体とする遺物包含層が検出された。その上位には鴨部川による洪水堆積層が厚く堆積している。弥生時代前期の土器の遺存状態は良好で、器種は壺、甕、蓋などがある。

8. まとめ

香川県東部における弥生時代の遺跡としては三木町香川大学農学部構内、長尾町下辛立遺跡、大内町落合遺跡が主要なもので、鴨部川田遺跡出土の土器はこれらの遺跡と共に、同地域の歴史を解明するうえで貴重なものである。



第1図 遺跡の位置



第2図 出土遺物

蓑神遺跡

- 所在地 大川郡寒川町石田東蓑神
- 調査主体 香川県教育委員会
- 調査期間 平成2年2月14日
- 調査面積 30m²
- 調査担当者 文化行政課技師 國木健司
- 調査に至る経過

県道田面富田西線予定地内には周知の埋蔵文化財包蔵地は所在しないが、掘削工事中に土器が出土した旨連絡があり、平成2年2月6日に県教委職員が現地視察を行った。その結果、弥生土器の出土及び濠状の遺構が確認されたため、確認調査を実施した。

7. 調査結果の概要

比高差約4mの段丘より濠状の遺構3条を確認した。最北端のSD01は幅4m、深さ0.8mをかかり、濠であった可能性が高い。SD03は先の視察に弥生土器が出土した遺構である。3遺構とも埋土は暗灰褐色砂質土であり、地表下1~1.4mを遺構面とする。

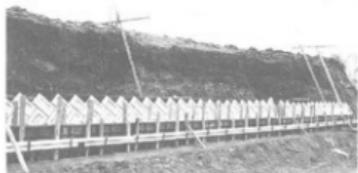
SD03から出土した壺形土器は底部穿孔の平底、肩部に2条の刺突文が施されている。

8.まとめ

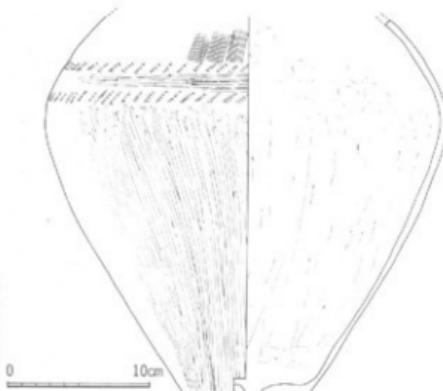
蓑神遺跡は弥生時代中期後半に属する環濠集落である可能性が高い。従って、周辺の微高地部分に広範囲に遺跡が広がるものと考えられる。



第1図 遺跡の位置



第2図 掘削断面にあらわれた濠状遺構



第3図 出土土器実測図

不動の滝遺跡

1. 所在地 三豊郡豊中町大字岡本字滝下
2. 調査主体 豊中町教育委員会
3. 調査期間 平成元年6月12日～6月30日
4. 調査面積 171m²
5. 調査担当者 豊中町教育委員会 森 裕行
6. 調査の原因 町道「不動の滝線」建設
7. 調査結果の概要
町道「不動の滝線」建設に伴い試掘調査を行った。

トレーニング設定は建設予定地の中で比較的フラットな地点を2ヶ所選んだ。北側のトレーニングは10m×15m、南側のトレーニングは3m×7

m。2ヶ所のトレーニングからは遺構、遺物は検出されなかった。他の地点は急傾斜地であり、遺構の存在は考えられないため、試掘対象地点とはしなかった。

8.まとめ

不動の滝遺跡は町指定名勝不動ヶ滝から旧県道にかけての広範囲な遺跡である。扇状地形上の畠地からは、これまでにも耕作中に多くの石器やサヌカイト片が表採されている。今回の調査地点より東に向って緩傾斜になる地で井戸を掘った時に石斧や土器片多数が出土している。旧県道より東側の田からも弥生土器の完形品が数点出土している。近くの住宅でも堀を作っている時に弥生土器の完形品が数点出土している。不動の滝遺跡は弥生時代を中心とする相当広範囲な遺跡であることが考えられる。具体的にはどの程度の広がりをもつ遺跡であるかは、今の時点では特定しにくいと考えられる。



第1図 遺跡の位置



第2図 北側トレーニング



第3図 南側トレーニング

橋城跡

1. 所在地 三豊郡財田町財田上我久2362-3他
2. 調査主体 財田町教育委員会
3. 調査期間 平成元年9月25日～10月4日
4. 調査面積 94m²
5. 調査担当者 財田町教育委員会 浮草登盛
文化行政課主任技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過

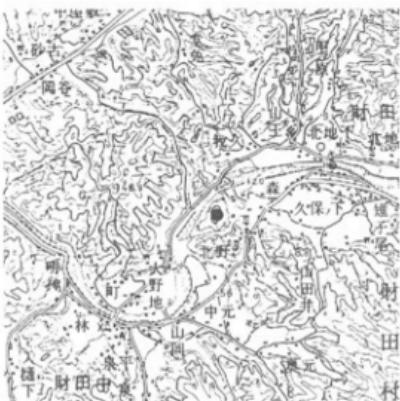
財田町教育委員会は橋城跡の整備・保存・活用のための資料を得ることを目的として発掘調査を計画し、県教育委員会の指導のもとに、確認調査を実施した。

7. 調査結果の概要

城山頂上部を占める主郭部に5箇所、東郭の土塁推定地に1箇所トレンチを設定し、地下遺構等の内容の把握に努め、あわせて城郭遺構の所在、配置等の確認のため踏査、開取り調査を行った。主郭部の調査ではピットを中心に遺構が検出され、また、遺物は土師器、備前焼、不明粘土塊、不明鉄製品、石硯などが出土した。東郭のトレンチでは土塁の所在を示す土層の堆積が確認されなかった。踏査により主郭部西方の2筋の尾根に小規模な削平地と空堀が確認された。

8.まとめ

調査の結果主郭部には掘立柱建物および柵列等が所在することが判明し、出土遺物から城跡の年代の一時期を15世紀～16世紀頃に比定できる。橋城跡は所謂中世城郭の特徴を良好に遺しており今後、町教育委員会による主体的な遺跡の整備・保存および活用が望まれる。(岩橋)



第1図 遺跡の位置



第2図 橋城跡遠景（東から）



第3図 調査トレンチ配置図（約1:1,000）

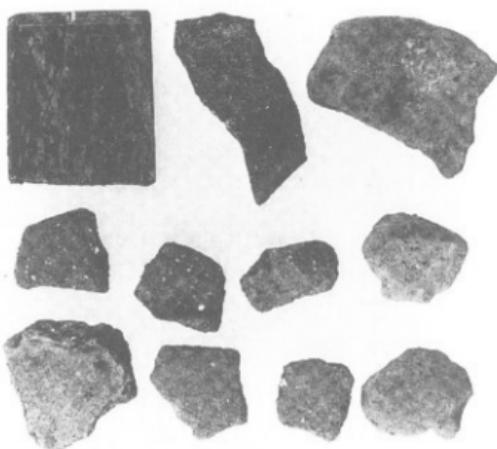


第4図 東郭（南から）

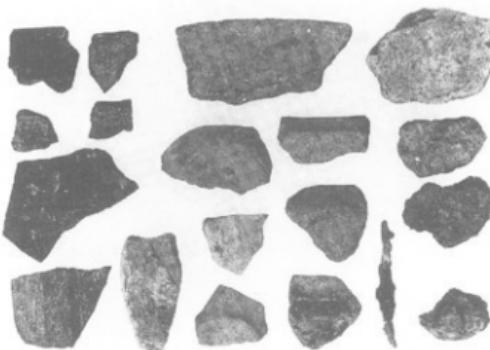


第5図 土塁細部（檜台の東側）

第6図 トレンチ①出土遺物
左上は石硯（幅4.7cm）



第7図 トレンチ③出土遺物



第8図 城山南東麓出土品

第2図の▶印の位置から昭和30年代初頭、開墾中に一括して出土したという。

銅製の密教法具。

五鉢杵 1、蓋 2、小鉢 8、台皿 5。蓋、小鉢、台皿は瀝水器もしくは六器であろう。



紫雲出山遺跡

- 所在地 三豊郡詫間町大字大浜乙451-1
- 調査主体 詫間町教育委員会
- 調査期間 平成元年9月19日～9月21日
- 調査面積 7.6m²
- 調査担当者 詫間町教育委員会 小林千芳
- 調査の原因

紫雲出山遺跡の保存整備事業に伴い、水道管理設工事中、土器片が出土したので、その周辺区域の埋蔵文化財の状態を調べる。

7. 調査結果の概要

紫雲出山(352.4m)は、昭和30年代と63年度の調査で、弥生時代の高地性集落として確認されている。今回の調査地は、頂上から水道パイプに沿って東へ82m、標高346mである。

地表面は急な斜面であり、周辺には雑木が茂っている。その場所(土器片の発見場所)に、2m×1mのグリッド2ヶ所、1.5×0.7mのグリッド2ヶ所、1.5×1mのグリッド1ヶ所を十字に設定した。各グリッドからは、弥生時代中期後半の土器細片とサヌカイト片が出土した。

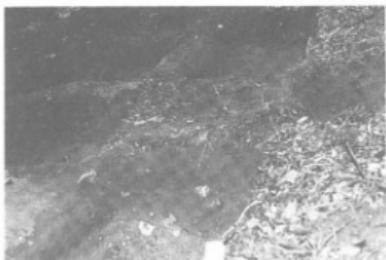
8.まとめ

出土した土器片は15点、サヌカイト製石器片は3点である。量は多くないが、頂上の集落(高地性集落遺跡)から、自然状態で流れ落ちたものが窪みに埋もれているのではないかと思われる。今回、水道管を埋設中に、そうした窪みの一部から土器片が出土したものと考えられる。今回の調査では、調査面積がやや少ないとから、遺構等の検出が確認されていない。

今後、頂上周辺地域の調査をつづけることによって、さらに紫雲出山遺跡の全容が明らかになると思われる。



第1図 遺跡の位置



第2図 調査地近景



第3図 土層断面

丸亀城跡

1. 所在地 丸亀市一番丁
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成元年10月31日～2年3月31日
4. 調査面積 926m²
5. 調査担当者 丸亀市教育委員会 東 信男
6. 調査の原因 史跡丸亀城跡環境整備
7. 調査結果の概要

本調査により、本丸東南隅櫓東側から礎石建物、瓦の雨落ち、暗渠、北側から石製排水路、西側から石製排水路、礎石列（多聞）を検出した。本丸西北隅櫓の東側、南側からも同様に、石製排水路、礎石列（多聞）を検出

したが、三の丸隅櫓周囲からは遺構の検出は無かった。

本丸中央部において、東西20m、南北2mのトレンチ調査をし、東側地表下0.16mで岩盤（地山）を検出、西へ行く程、レベルを下げている。

遺物は、瓦、漆喰、釘、地山より土師質の皿も出土した。

8. まとめ

本丸、三の丸の隅櫓跡及びその周囲を主体とした今回の調査では、以下のことが判明した。まず、櫓内は、栗石を敷きつめ、礎石を配置する天守と同じ構造をしていること。次に、本丸は多聞の礎石列の検出により櫓と櫓が連結していたことである。

また、絵図による生駒氏時代の丸亀城天守跡を探るため実施した本丸中央部の調査では、出土した土師質皿が城以前の遺物と思われ、さらに、トレンチ西側の人工的集石層が、山崎、京極氏時代の丸亀城遺構面より下に存在することである。



第2図 三の丸北西櫓



第1図 遺跡の位置



第3図 本丸東南隅櫓東側

讃岐国分寺跡

1. 所在地 国分寺町国分字上所
2. 調査主体 国分寺町教育委員会
3. 調査期間 平成2年1月8日～2月1日
4. 調査面積 90m²
5. 調査担当者 国分寺町教育委員会 松尾忠幸
6. 調査の原因 史跡の保存整備
7. 調査結果の概要

讃岐国分寺跡は、昭和58年から昭和61年の調査成果に基づいて、遺跡の修景保存整備が行なわれているが、僧房跡北側の整備区域では史跡外からの地下水等の浸水が著しく、排水施設を計画する必要があった。そこで、僧房跡覆屋北東に集水施設を設けるために、事前の発掘調査を実施した。調査の結果、瓦片、土師器、近世陶磁器片が出土したが、国分寺に関連した遺構は存在しなかった。しかし、調査区北端では南東に向けての落ち込みが確認され、近世の農業用水等に関連した遺構である可能性も残った。

8. まとめ

讃岐国分寺は、奈良時代には寺域の周りに溝を設け排水整備を整えていたはずであるが、現代においては遺跡より、周辺の地形が高くなっている。水田に必要用水として多量の水が史跡地内へ流れ込む結果となっている。また、鐘楼跡・僧房跡の発掘調査でも基壇を断ち切った排水溝が確認されており、史跡地内に水を引き込む工夫は排水溝からの出土遺物から近世に大規模に行われた可能性が強いと思われる。



第1図 遺跡の位置



第2図 調査位置図



第3図 調査区精査状況

本村古墳群

1. 所在地 坂出市府中町字本村他
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成元年3月7日～7月31日
4. 調査面積 570m²
5. 調査担当者 坂出市教育委員会 今井和彦
6. 調査の原因 ゴルフ場開発に伴う発掘調査
7. 調査結果の概要

調査対象区は城山明神原より下に広がる丘陵地区であり、付近には白砂古墳・タイバイ山古墳といった前期古墳が存在し、後期古墳として本村古墳群が点在する。このうち本村2号古墳、土器埋納跡、本村荒神古墳について調査を実施した。

【本村2号古墳】荒神古墳から谷一つ挟んで北の尾根の南斜面に立地。水田と納屋等で削平を受け

る。漢道部は消滅しており、玄室は中位より基底部にかけて残存する。袖部は片方のみ玄門立柱が残り、一方は消滅。但し、納屋横等に乱積している石材の中に玄門立柱に相当する石材が存在するため、両袖の横穴式石室であった可能性も高い。玄室奥部床面で礫床を検出。その下層に花崗岩塊・安山岩板状石を方形状に配する。遺物は出土していない。地山は脆い砂質状の花崗岩バイオリン土を基調とし、安山岩石塊が多量に混入する。この安山岩石塊は築造に伴うものではなく、谷筋を埋めた流石土であり、この地区に広範囲に認められる土質である。石室は丘陵側を段状に掘り窪めた後に、版築で築いている。玄室長3.6m、玄室幅2.0m、玄室残存高1.5m。〔遺物〕石室埋土上層に中近世の遺物が出土。但し擾乱しておらず、特定の出土状態は得られなかった。石室床面上遺物も非常に希薄であり、玄門付近床面にて須恵器腕1点が伏せられた状態で出土した他は、須恵器壺蓋の小片が数点検出されただけである。礫床上での遺物は検出されなかった。遺物より6世紀末頃の築造であろうと推察される。

【土器埋納跡】本村2号古墳より更に西に登った地点で尾根の南斜面に位置し、昭和初期の宅地造成によって段状に削平された斜面部が調査対象区である。この遺跡の名称は、その



第1図 遺跡の位置



第2図 本村2号古墳石室

造成の際に多量の土器が出土し、再び埋め戻したという伝承に基づいている。遺構は僅かな凝灰岩塊と安山岩板石で、L状に配された石列だけが検出された。L字状遺構は東西約1m、南北約2m、高さ約40cmの規模で残存しており、南西角部を中心に、石列に沿って遺物が出土した。遺物は6世紀末頃を中心とした須恵器坏、蓋、横瓶等で、器台の一部になると推定される遺物も出土している。通常、後期古墳等で出土する遺物と同様な内容であるが、須恵器以外の遺物は検出されていない。遺構の性格は小型の埋葬施設又は祭祀遺構の可能性が高い。

【本村荒神古墳】荒神社西裏の低丘陵尾根先端部に立地。墳丘の大半を消失し、奥壁や基底石が露出。地山の花崗岩バイライン土に深さ約1m程の墓壙を掘り、石室を構築する。石室は羨道部が短い片袖の横穴式石室で、花崗岩巨石を多用しており、袖部の板状石のみ安山岩を使用している。羨道長2.0m、羨道幅0.7~1.0m、羨道高1.8m、玄室長3.3m、玄室幅2.0m。〔遺物〕最上層より土師質皿、輸入青磁が出土。13世紀頃と考えられる。第2層では平安時代頃の土師質壺2点が口縁部を合わせた状態で出土。藏骨器の可能性が考えられる。埋葬は最低2回実施されており、上位の床面では坏蓋・身、平瓶、長頸壺、赤色粉末（顔料？）入り有蓋短頸壺（但し蓋未検出）等の須恵器が出土。他に鉄器（鍔）数点、装身具として耳環2点、土玉多数を検出。装身具の位置より石室中央部に棺を置き、遺骸の頭部を羨道向きに安置したと推察される。下位の床面でも同じく須恵器小片や鉄鍔、鉄鎌、耳環2点を検出。下位の遺物の幾つかは明らかに擾乱を受けており追葬に伴い内部の遺物等を外へ掻き出した可能性が高い。但し、棺台横のミニチュア須恵器については、遺物の掻き出しの後に何らかの目的で意識的な配置を行ったものと考えられる。

遺物より6世紀末頃の築造であろうと推察される。



第4図 本村荒神古墳石室正面



第3図 L字状遺構 南西角部土器出土状態



第5図 本村荒神古墳石室平面

雌山古墳群

1. 所在地 坂出市林田町字雌山他
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成元年8月23日～10月18日
4. 調査面積 180m²
5. 調査担当者 坂出市教育委員会 今井和彦
6. 調査の原因 雌山観光開発に伴う埋蔵文化財確認調査
7. 調査結果の概要

調査対象区は周知の遺跡である3基の積石塚が立地する雌山（標高約168m）山頂を中心とした尾根線上である。調査は古墳を中心に幅1～2mのトレンチを尾根上に設定して積石塚の範囲確認を



第1図 遺跡の位置

実施するとともに、その他の遺跡の確認を行った。その結果、3基の古墳以外の遺跡は確認されなかった。又、積石塚の範囲確認のトレンチからも、遺物は検出されなかった。なお、主体部への調査は実施していない。各トレンチの状況はほぼ同様で、地表下約20～50cmで風化安山岩を検出した。この地山は山頂部分のいたるところで露出しており、全般に南方向から北方向に斜傾する岩脈である。以下、各々の積石塚についての調査結果を述べる。

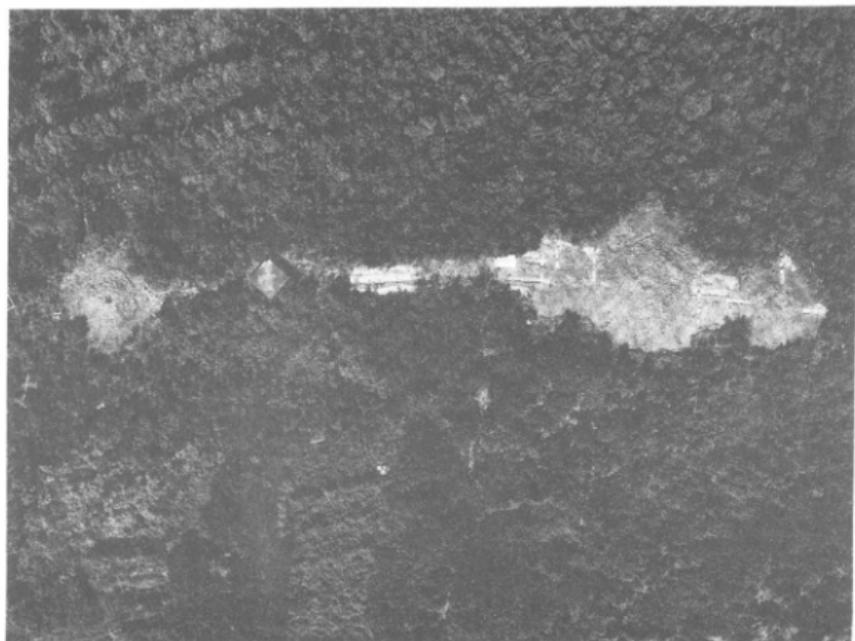
【雌山1号古墳】方墳。標高167.5m、山頂部の西端に立地。内部精査は実施していないが、中央部の盗掘により一部石室の側壁が観察でき、東西に長軸をもつ石室と考えられる。墳丘は南北12m、東西10.5mのやや南北に長い方形を呈しており、高さ南北約1.8m、東西約0.8～1.2mを測る。全体に各辺の裾部は凹凸であり直線的な部分は少なく、後世の積みなおしがみられる。これは東側に位置する貯水槽建設時に相当の石塊が流用されたことに起因するものと思われる。ただ西側の石積みの一部は他の面より良好に残存しており、後世の擾乱が少なかったものと考えられる。古墳の範囲は地表に露出した積み石部分がほぼそのまま範囲となり、地下に埋没している部分は殆ど無いと考えてよい。

【雌山2号古墳】前方後円墳。標高約160m付近、山頂部東尾根上の緩斜面に立地。従来円墳とされていた古墳で、調査により前方後円墳であることを確認した。東西方向に主軸をとり後円部を積み石、前方部は安山岩小礫を混入した盛土で築いている。前方部長東西約13m。前方端部南北約13m、端部高35cm（標高約159.8m）、くびれ部幅約8m（標高約159.1m）、後円部東西22m、南北19m、高さ2.5～3m、後円部標高約160m、後円頂平坦部径約10m。後円部北東部分に段と平坦部が存在する。後円部の範囲は地表に露出した積み石部分がその範囲となるが、南側は広く

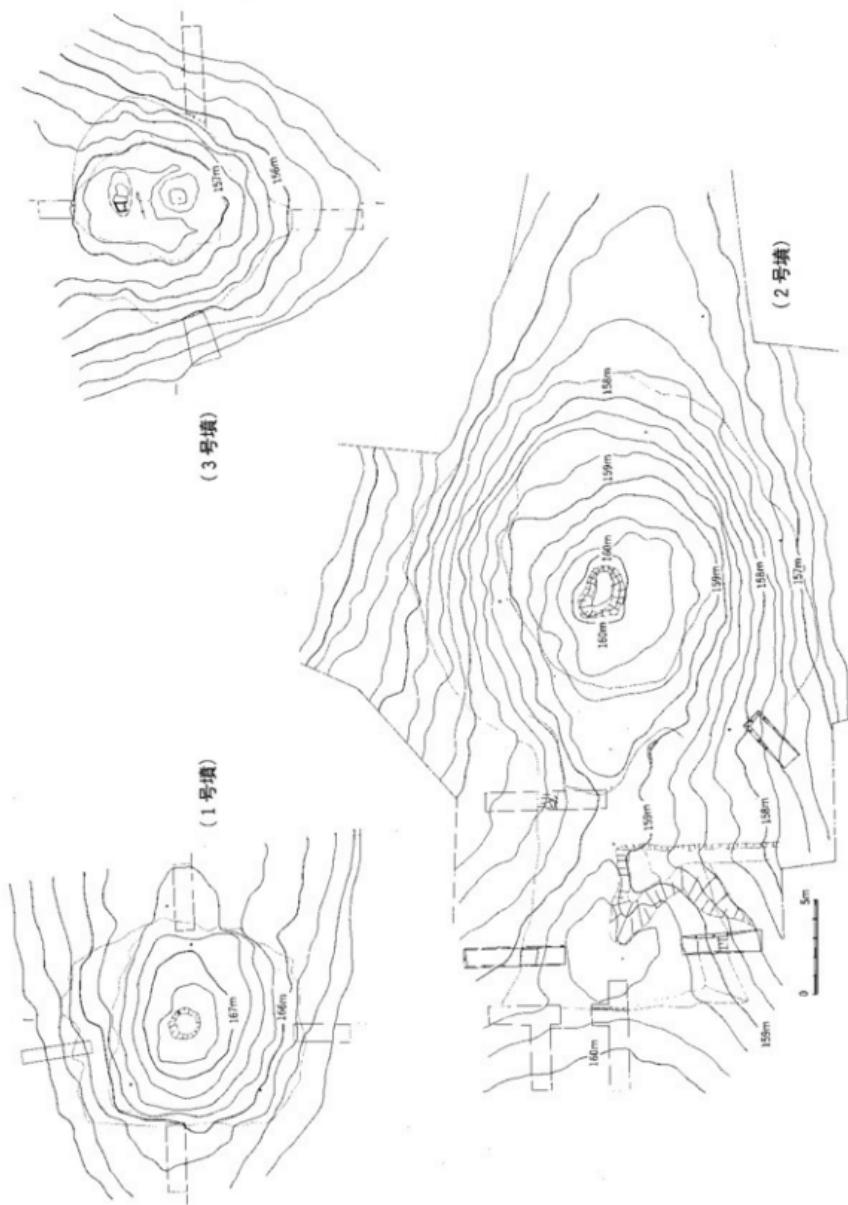
崩落石が認められる。くびれ部には安山岩小礫の盛り上がりが存在するが、これは後世の開墾に伴うものである。くびれ部裾は安山岩小礫が消滅し、地山安山岩が露出する地点を裾部とした。前方端部は安山岩板状風化の方向が変化し、平坦に地山整形された地点より小礫の混じりの盛り土となる部分を端部とした。

【雌山 3号古墳】円墳。標高約157.5m、尾根上緩斜面東端に立地。東西11m、南北11m、高さ約1.5mを測る。中央部に盗掘坑があり安山岩板石が散在する。主体部の位置は盗掘坑とほぼ一致していると思われるが、1号墳のように石室の一部が観察できる部分は確認されなかった。これとは別に墳丘西側付近に安山岩板状石が2枚ほど露出しており、南北方向を長軸として並べられている。板石の南端が開口しており、小型の石室と考えられ、幅約50cm、長さ約1.5mを計測した。古墳の範囲は、地表に露出する部分が裾部となるが、南側でやや崩落している。南裾部は確実に石が重なり合い、隙間を疊層で充填している部分を裾部とした。

今回の調査の成果は、2号古墳が前方後円墳であることが確認できたことにある。更に、トレンチ調査ではあったが、古墳の範囲についても把握することができた。しかし一方で、周辺からの遺物が得られていないため、積石塚の年代は從来どおり古墳時代前期頃であると考えておく。



第2図 雌山積石塚古墳群〔西(図面左)より1号、2号、3号墳〕



第3図 墳丘測量図

横立山東麓1号墳

1. 所在地 高松市中山町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成元年8月9日～8月21日
4. 調査面積 200m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 川畠聰
6. 調査の原因 果樹園内の採石作業
7. 調査結果の概要

当古墳は生島湾に面する丘陵の緩斜面に造られている。未周知の古墳であり、採石作業中に偶然発見された。担当者が連絡を受け現地に赴いたときには、積石が半分壊され、箱式石棺が蓋を開けられていた。箱式石棺は内法の長さ170cm、幅25～35cmを測り、安山岩の板石で構成されている。石棺内及びその周囲で土器片を採取し得た。製塙土器の破片で、6世紀後半頃のものである。ただし石棺内の土器片においても、蓋を開けた際の流入土に含まれるもので、石棺に伴うかどうか不明である。

8.まとめ

墳丘は現状では10m×20m、高さ2mの楕円形の積石であるが、その大半が後世（果樹園の開墾等）によるものである。積石状況の観察では、おそらく当初は石棺が隠れる程度であったと思われる。付近には同様な積石が9基ほどあるが、現状では古墳か否か識別するのは困難である。また当古墳の時期についても明確にすることはできなかった。しかしながら同じ下笠居地区で、かつて積石塚から須恵器が出土したという記載（『下笠居村史』）があることから、当古墳についても更なる検討が必要である。



第1図 遺跡の位置



第2図 墳丘現状（南から）



第3図 箱式石棺（南東から）

平木 1 号 墳

1. 所在地 高松市鬼無町山口
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成元年 7月 5日～8月 1日
4. 調査面積 約400m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 川畠 聰
6. 調査の原因 宅地造成に伴う範囲確認調査
7. 調査結果の概要

当古墳は勝賀山から東南にのびる尾根の南斜面に立地し、横穴式石室を主体部とする。付近には同様な古墳が10基近くあり、神高古墳群を形成する。なお昭和58年に石室内を香川大学が調査している。

墳丘に2本と石室前面にトレンチを設定した結果、墳丘北側において墳裾を確認した。また石室前面では破壊された築道の基底石及び抜き取り穴を確認するとともに、墓道の一部も検出した。築道では排水溝とその覆石を確認することができた。出土遺物は須恵器、土師器、鉄器、金環、陶棺片である。玄室奥壁に沿って鉄刀と土師器2点が置かれていた。

8.まとめ

平木1号墳は径19mの円墳と復元できる。石室は玄門部が突出するタイプのもので、南々東に向開口する。石室は全長11.1m、玄室長さ5.4m、幅1.6～2m、築道長さ5.1m、幅1.8mを測る。出土遺物より築造時期は6世紀後半で、7世紀前半にかけて2～3度の追葬が行われている。陶棺は須恵質で最終追葬時のものであり、それ以外は木棺を安置したものと考えられる。詳しくは調査報告書を参照されたい。



第2図 墳丘前面（手前は排水溝）



第1図 遺跡の位置



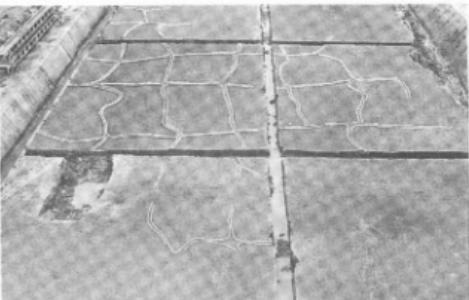
第3図 奥壁

浴・長池遺跡

- 所在地 高松市林町
 - 調査主体 高松市教育委員会
 - 調査期間 平成元年8月15日～2年3月20日
 - 調査面積 約8,000m²
 - 調査担当者 高松市教育委員会 山本英之
 - 調査の原因 一般国道高松東道路建設に伴う事前調査
 - 調査結果の概要

8. 人物

今回の調査では、微高地上の弥生中期を中心とした集落遺構と河川の埋没過程で営まれた水田を重層的に確認することができ、弥生中期前半の土器群等、これまでの高松平野の歴史の空白を埋め得る資料を断片的ながらも確認することができた。また、従来河川の氾濫原として見過ごされがちであった砂礫層上面にも遺構を確認し得たことは、今後の調査を進めるうえでも参考となる成果であったといえる。



第2図 古代水田跡

天満・宮西遺跡

1. 所在地 高松市松郷町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成元年9月1日～2年2月28日
4. 調査面積 約4,000m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 川畠 聰
6. 調査の原因 都市計画道路福岡多肥下線建設
7. 調査結果の概要

当遺跡は高松平野の中央、石清尾山の東2kmの所にあり、南北600m、東西200mの微高地上にのっており、標高5～6mである。大きく弥生時代前期中頃、弥生時代後期、7～8世紀、中世以降の4時期に分かれる。

弥生時代前期では径65mほどの環濠状に巡る溝の一部と、土坑を検出した。溝が囲む範囲内に土坑が集中することから、集落があったと想定される。溝内からは多くの土器が出土し、中には木葉文をあしらったものがある。磨製石庖丁、土製紡錘車も出土している。

弥生時代後期では堅穴住居址16棟以上、井戸2基、多くの溝、柱穴、土坑を確認した。堅穴住居には円形と方形の2つのタイプがあり、円形のものはその外側に溝を巡らすものもある。また微高地の北側の谷には前期から後期にかけての遺物を包含した自然流路がある。井戸からは、鉄斧の柄、自然流路からは木製の舟形模造品が出されている。

7～8世紀の遺構は柱穴、溝で、5棟以上の掘立柱建物が復元できる。この時期、北側の谷では不定形な水田が営まれており、谷を横断する畦畔の一つには石が大量に埋め込まれたものがあり、道として機能していたと考えられる。

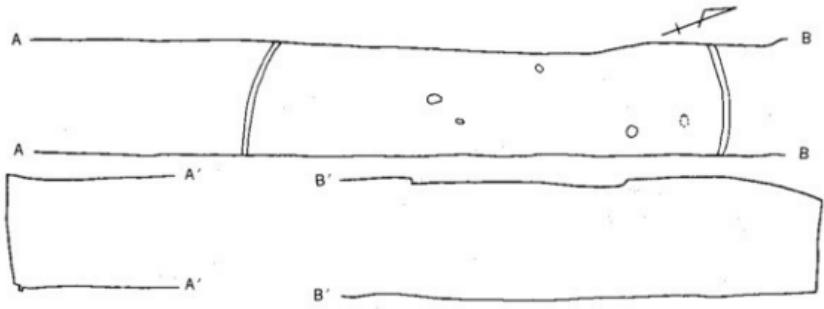
中世以降はこの付近は全面水田化され、水田に伴う小溝や牛の足跡を検出した。小溝はかなりの削平を受けているが、東西南北にほぼ一致し等間隔に並ぶと考えられる。

8.まとめ

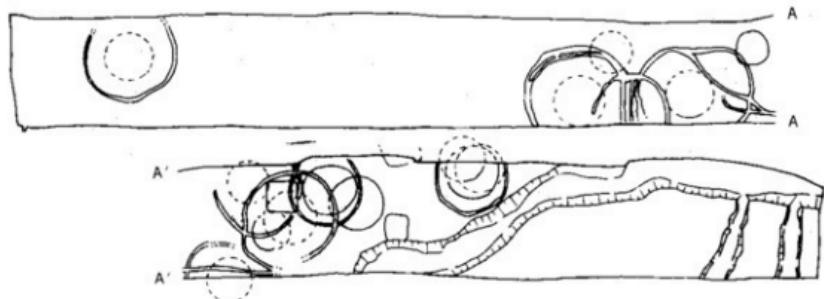
今回の調査により、当遺跡が弥生時代前期から近世までの複合遺跡であることが判明した。各時代の集落址は高松平野の歴史を復元していく上で貴重な資料となるであろう。また7～8世紀の水田址、中世以降の水田に伴う小溝は、高松平野の条里制を考える上で重要であろう。さらに弥生時代後期に埋没した自然河川内には、微高地上に存在しない弥生時代中期の土器が含まれていることから、上流にその時期の集落があることを示唆するものである。



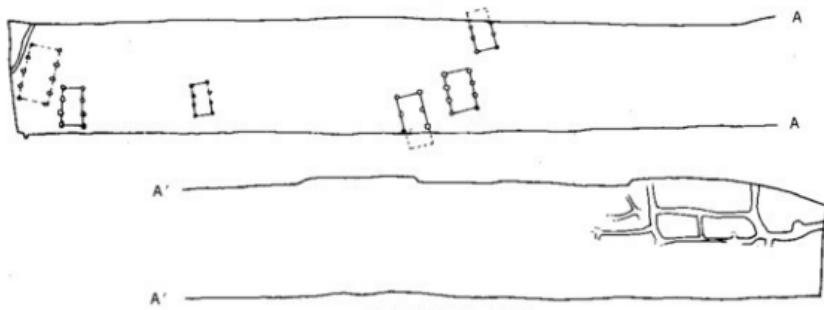
第1図 遺跡の位置



弥生時代前期溝及び土壙



弥生時代後期竪穴住居と自然流路



7～8世紀掘立柱建物と水田址

第2図 天満・宮西遺跡遺構変遷図

漆谷古墳群

1. 所在地 高松市新田町漆谷
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成元年9月8日～12月5日
4. 調査面積 約153m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会
6. 調査の原因 グランド造成に伴う確認調査
7. 調査結果の概要

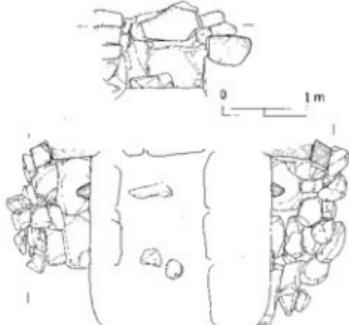
古墳は、高松平野の東を限る立石山から西へひだ状に伸びる一支脈の南斜面、狭い谷筋の奥部に位置する。分布調査、試掘を経て3基が確認され、その全てについて調査を行った。墳丘は、竹林による土地改変で不明だが

1号墳のみは斜面上手に径約8mに浅い溝が巡る。埋葬主体はいずれも南に開口する無袖式横穴式石室で風化花崗岩の地山を掘り込んで構築する。石室幅約1m、石室現存長2～3mと似通った規模である。遺物は貧弱で土師器杯身、須恵器片、鉄釘等が散見されるにすぎない。

8.まとめ

古墳の築造年代は、遺物から7世紀を中心とした時期で、一部8世紀まで祭祀が及んだと考えられる。付近の長尾古墳群、岡山古墳群等の同様な小古墳群と併せ考えると古墳時代終末期の地域豪族の動向等も明らかにできるものと思われる。

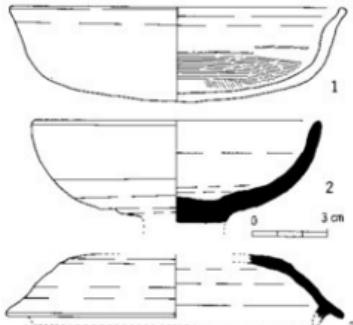
なお、古墳はグランドの造成を待って、2基が移築復元されることになっており、関係者の御理解と御協力に深く感謝するものである。



第2図 漆谷1号墳石室実測図



第1図 遺跡の位置



第3図 出土遺物 1 漆谷1号墳
2, 3 // 2号墳

弘福寺領田図関係遺跡

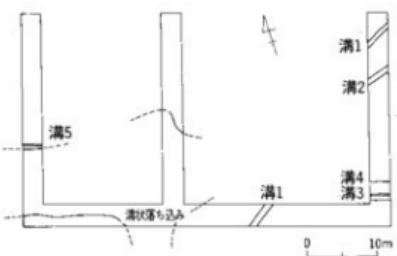
- 所在地 高松市林町1937
- 調査主体 高松市教育委員会
- 調査期間 平成元年12月4日～2年3月10日
- 調査面積 400m²
- 調査担当者 弘福寺領畠畠山田郡田園調査委員会
- 調査の原因 表記関連遺跡の確認調査
- 調査結果の概要

調査は、土層ごとに掘り下げる方法で、現水田より約1m下げる。その結果21面の旧地表面を確認し、5層の遺構面を検出した。

第1層は近代の土坑、犁跡、第2層は近世の粘土採集痕を検出した。第3層は5本の溝と溝状落ち込み、歎跡、犁跡を検出す。溝状落ち込みの底面より須恵器片、土師器片が出土する。第4層は不定形小区画水田、第5層は定形小区画水田である。後者は2×4mの方格状に整然と区画されている。

8.まとめ

第3層は昨年度調査において6～13世紀の長期間の地表面と確認されている層と同一である。その層を掘り込む溝状落ち込みは、幅10mで調査区南端を南東から北西に延び、土層観察により水田面であり、その周囲は水田あるいは畠地である事が判明した。調査において確認した地形は、田図に表現された土地利用状況とよく対応する。以上の点から当該地区が田図の記載にあるような条件の土地であった可能性が高くなかった。また、第4層は弥生後期以前の水田、第5層は弥生中期以前と考えられる。



第2図 第3層遺構配置図



第1図 遺跡の位置



第3図 第5層定形小区画水田平面図

三谷石舟池1号石棺

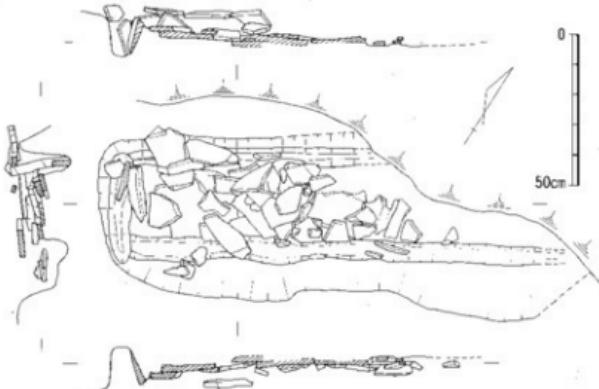
1. 所在地 高松市三谷町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成元年11月14日～12月6日
4. 調査面積 約10m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会
6. 調査の原因 堤防改修に伴う確認調査
7. 調査結果の概要

三谷石舟古墳の北側をほぼ東西に通る谷を後円部埴裾から東北東にのびる堤防でせきとめ、石舟池が構築されている。調査は、堤防が後円部に取り付く部分での埴輪施設と周溝の存在の有無の確認を目的として実施した。



第1図 遺跡の位置

この結果、古墳に直接関係する周溝掘方、埴輪等の施設は確認できなかったが、堤防内より、堤体抜作業中に埴裾から約8mを隔て、現堤防上面から約2m下がった位置で箱式石棺1基を検出した。石棺はN59°Eに主軸を置き全長1.4m、幅30～40cm、残存高15cmを測る。上面は後世の削平を受けており、墓壙の深さも底部付近の10cmを残すにすぎない。石材は1辺10～20cm程度の安山岩削板石を使用している。床面に敷石、貼石等の形跡はなく、天井を架構したと思われる石材も確認できなかった。遺物が出土していないため、年代決定は棺形体等より推測するよりなく、三谷石舟古墳との関係についても現時点では明確にし得ない。



第2図 箱式石棺実測図

下屋遺跡

1. 所在地 大川郡長尾町昭和字下屋
2. 調査主体 長尾町教育委員会
3. 調査期間 平成元年5月16日～6月5日
4. 調査面積 800m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 國木健司
6. 調査の原因 県道高松長尾大内線道路改良工事
7. 調査結果の概要

当該地は大宮古墳推定地であったが、昨年度の試掘調査により古墳時代以降の集落遺跡であることが確認されていた。今回の事前調査により、古墳時代後期～終末期の竪穴住居跡3棟、7～8世紀の掘立柱建物跡2棟、多数のピット群及び土坑2を検出した。また、遺構面は東方に向かってゆるやかに傾斜するが、この落ち上層には厚い遺物包含層が形成され、弥生土器、須恵器、土師器等が出土している。

8.まとめ

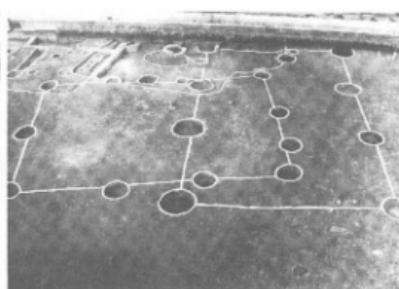
今回の調査により大宮古墳の存在は否定されたが、鴨部川中流東岸の自然堤防上に帯状に広がる集落遺跡の存在が確認された。時期的には古墳時代後期～奈良時代初期を中心としており、町内では初めて確認された同時期の集落遺跡として注目される。なお、長尾町教育委員会より報告書が発行されており、遺跡の内容・範囲等についての詳細は同書を参照されたい。



第1図 遺跡の位置



第2図 遺構完掘状況全景



第3図 SB01・02完掘状況

鴨部南谷遺跡

1. 所在地 大川郡志度町鴨部字田中
2. 調査主体 志度町教育委員会
3. 調査期間 平成元年7月3日～8月1日
4. 調査面積 600m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 國木健司
6. 調査の原因 県営圃場整備（鴨部）
7. 調査結果の概要

昨年度の発掘調査により、濃密な弥生土器等の遺物包含層を確認した地区の北隣地が今回の調査対象地である。南北約60m、東西10mの調査区である。調査区南端付近は昨年度検出した遺物包含層の延長部分を確認した。

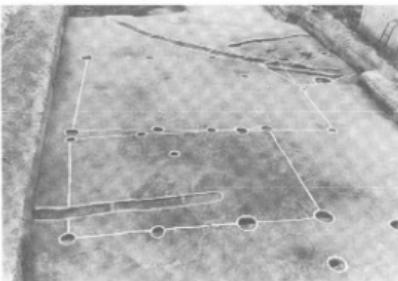
調査区中央付近では幅15m、深さ1mをはかる自然河川を検出した。河川内からは縄文時代後期、弥生時代中期～古墳時代前期の土器が多量に出土している。また、同河川の南北両側の微高地より竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡2棟等を検出している。

8.まとめ

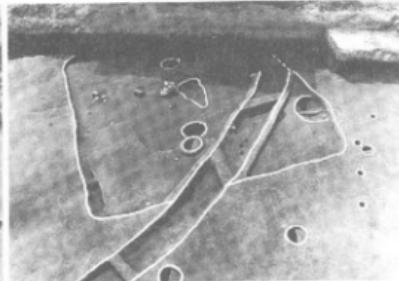
今年度の発掘調査では遺構は比較的少なかったが、自然河川及び包含層中より多量の遺物が出土した。時期的には弥生時代中期中葉～古墳時代前期を中心とした集落遺跡であり、同時期の遺構が扇状地内に広範囲に広がるものと推定される。また、自然河川内より志度町内では初めて縄文土器（後期）が検出され、上流域に同時期の遺跡が所在するものと推定される。なお、町教育委員会より平成元年度に報告書が刊行される予定である。



第1図 遺跡の位置



第2図 N区完掘状況全景



第3図 N区SH02

富田茶臼山古墳

1. 所在地 大川郡大川町富田中石仏
2. 調査主体 大川町教育委員会
3. 調査期間 平成元年 8月 1日～10月 4日
4. 調査面積
5. 調査担当者 大川町教育委員会 寺田文久
文化行政課技師 國木健司
6. 調査の原因 古墳の範囲確認調査
7. 調査結果の概要

古墳の範囲確認のため墳丘測量及び周濠部等の試掘調査を行った。墳丘は東西方向に主軸をもち、全長139m、後円部径91m、前方部幅77mをはかる前方後円墳で、前方部・後円

部ともに3段築成である。周濠は前方部に向かってすばまる盾形で、左右対称に設定されている。墳丘1段目に設定したトレンチからは葺石は検出されなかったが、後円部東側の1トレンチでは円筒埴輪列を検出した。周庭帯については古墳南北両側において現行地割から推定することが可能となった。

8. まとめ

今回の確認調査により、古墳の詳細な規模・内容・時期等について確認することができた。葺石の所在については確認されなかったが、左右対象に周濠及び埴輪列の存在が確認された。出土埴輪からみて5世紀前半頃の築造と推定される。墳丘築造法には幾内の中期大型前方後円墳に共通する点が多く、幾内勢力との関係が推定される。富田茶臼山古墳は県内の古墳の象徴であり、今後の積極的な保存・活用が望まれる。平成元年度に町教育委員会より報告書が刊行されている。(國木)



第1図 遺跡の位置



第2図 航空写真



第3図 1トレ埴輪列

大井4号、5号墳

1. 所在地 大川郡大川町富田西大井
大川郡寒川町神前石井
2. 調査主体 大川町教育委員会
3. 調査期間 平成元年6月30日
4. 調査面積 (測量) 3,500m²
(試掘) 10m²
5. 調査担当者 大川町教育委員会 寺田文久
文化行政課技師 國木健司
6. 調査に至る経過

大井4、5号墳を含む七つ塚古墳群は5世紀～6世紀初頭の古式群集墳であり、県内でもその典型的なものとして著名である。近年、

当該地周辺に開発の波が押し寄せており、両古墳も墳丘部がかなり掘削を受けている。このような状況下で地権者から事務所建設及び古墳の復元整備を実施したい旨申し入れがあり、その基礎資料となる墳丘測量図を作成するとともに、古墳の範囲確認を目的として確認調査を実施した。

7. 調査結果の概要

両古墳の測量調査並びに4号墳の掘削断面精査及び試掘調査を実施した。

4号墳は試掘トレンチより幅約2m、深さ0.5mの周溝を検出した。過去の調査の際、古墳南側で周溝の存在が指摘されていたが、墳丘北西側でも検出されたことから、周溝は全周するものと考えられる。周溝内より多量の埴輪片が出土したが、器種の判明するものは全て朝顔形埴輪である。試掘結果をもとに墳丘規模を復元すると直径約22m、高さ約3.5mとなる。墳丘には明確な版築が認められた。

5号墳は測量のみであったが、推定復元径20m、高さ約3mを測る。

8.まとめ

時期的には4号墳が5世紀末、5号墳が6世紀初頭に位置付けられるが、大井七つ塚古墳群は富田茶臼山古墳に後続する有力墳であることから、他の5基の古墳と併せ、系譜関係等の相互関係を検討し、古墳群全体の歴史的評価を行うことが県内の古墳時代後期社会への移行を解明する上で重要となってこよう。

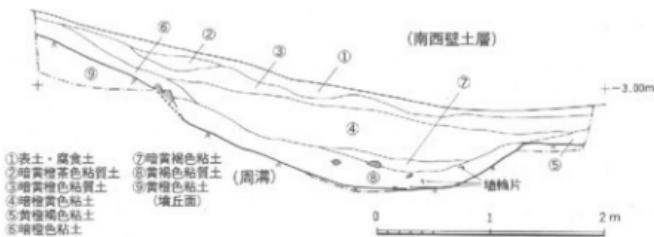
なお、両古墳は地権者の御好意により現状保存され復元整備が行われる予定である。(國木)



第1図 遺跡の位置



第2図 墓丘測量図



第3図 (大井4号・5号)トレンチ土層実測図



第4図 トレンチ完掘状況



第5図 4号填墳丘版築状況

粟地遺跡・釘が谷東遺跡

- 所在地 小豆郡内海町安田粟地、釘が谷
- 調査主体 内海町教育委員会
- 調査期間 平成2年3月5日
- 調査面積 20m²
- 調査担当者 文化行政課技師 国木健司
- 調査に至る経過

当該地周辺には粟地遺跡、釘が谷遺跡等多数の弥生遺跡が所在しているが、それらの位置及び範囲については明確でなかった。

この度、内海町を事業主体とする粟地2号農道及び水路建設工事実施中に、平成2年2月23日弥生土器片の出土が確認されたことか

ら、遺跡の内容及び範囲について確認するとともに、今後掘削予定部分について遺跡の所在状況を確認するため発掘調査を実施することになった。

7. 調査結果の概要

既工事部分については、北端の道路取り付き部分及び南端付近について断面観察を行った。①地区は地表下30~40cmに茶褐色遺物包含層が存在し、同層下の地山面を遺構面とするピット3、土坑1等の遺構を検出した。②地区でもやはりピット群及び焼土坑を検出している。

工事未着手部分では、現地表下約1mで、やや濃密に土器を包含する厚さ10cmの黄褐色土層を検出した。上方からの流れ込み堆積層と考えられ、上方谷筋に遺跡が所在するものと考えられる。

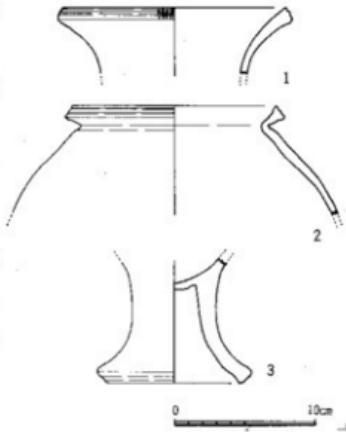
第2図1は既工事部分より出土した壺形土器片である。口縁端部の凹線上に4本の刻目文を持つ。2・3は工事未着手部分より出土した壺形土器で、くの字形に外反する口縁端部に2条の凹線を有する。3は高杯脚部で、底部は内外に拡張している。また、今回昭和54年度に町教委主体で発掘調査を実施した釘が谷遺跡出土の弥生土器実測図を掲載した。(第4図)

8.まとめ

今回の発掘調査により遺跡内容及び範囲に関する重



第1図 遺跡の位置



第2図 出土土器実測図

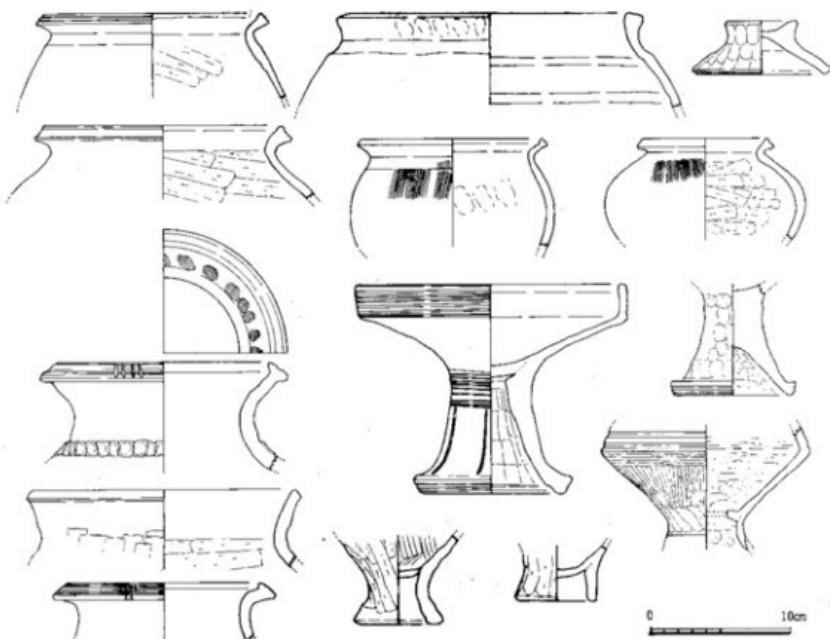
要な知見を得ることができた。

まず、既工事部分は緩斜面地域に広範囲に集落遺跡（粟地遺跡）が広がるものと考えられる。弥生時期中期末葉に位置付けられ、性格的には一種の高地性集落として把握されるが、このように奥まった谷筋内に占地するのは珍しく、高地性集落の類型化と各々の性格について検討する上で重要な位置を占める。また、当該地の東方に銅鐸、銅劍の出土を伝える極が谷遺跡が所在するが、その保有状況と年代等を示す具体例と言え、今後青銅器祭祀を考える上でも同遺跡群は極めて重要である。

遺跡範囲と名称に関し、整理を行つたのが第3図である。今回、新たに確認した遺跡は釘が谷東遺跡とした。今後はこの地図をもとに、適切な保護を図っていくこととした。



第3図 遺跡範囲推定図



第4図 釘が谷遺跡出土土器

四国横断自動車道建設に伴う調査状況

1. 概況

四国横断自動車道建設に伴う発掘調査事業も2年目を迎える。善通寺市龍川地区から高松市中間区までほぼ全線に調査区が展開した。調査成果の概要は次の通りである。

龍川五条遺跡では、今回の調査で主として弥生時代前期の墓域が確認された。検出した遺構としては、円形周溝墓・方形周溝墓（？）・木棺墓・土壙墓等及び溝状遺構・自然河川等がある。その結果、香川県の弥生時代前期の墓制の一端が明らかになったと言える。またこれ以外に、古墳時代初頭の竪穴住居跡が1棟、古代の掘立柱建物跡等も検出されている。

龍川四条遺跡は、古代を中心とする集落遺跡で、掘立柱建物跡が数多く検出され、集落の東西端を流れていた自然河川から縄文土器の出土も見られた。

三条番ノ原遺跡・郡家原遺跡はその大半を昭和63年度に発掘調査したが、部分的に残った未撤去家屋跡を中心として調査を実施した。調査の結果、三条番ノ原遺跡では弥生時代末～古墳時代初頭の竪穴住居跡を検出したほか、郡家原遺跡では古代の掘立柱建物跡及び溝状遺構を多数検出することが出来た。

郡家一里屋遺跡は、昭和63年度に遺跡の東西を調査し、今回は残していた中央部を調査した。

川西北・鍛冶屋遺跡では中世から近世の掘立柱建物跡及び土坑等を検出している。

飯山一本松遺跡は、分布調査で土器の散布が認められたが、調査の結果遺構を検出することは出来なかった。後世の開墾等による影響と考えられる。

綾南奥下池南遺跡は、分布調査の段階から須恵器窯の存在が予想されていたが、調査で須恵器窯の先端部分を検出している。窯の大半は今回の事業地外であった。これ以外には窯の所在は確認できていない。また、周辺の調査で縄文時代と推定される石器が確認されており、縄文時代の遺構の存在も予想されたが確認するには至らなかった。

国分寺下日名代遺跡は、本津川の西に広がり耕作にともない多くの遺物が採集されていることもあり、弥生時代から古代の大集落であろうと考えていたが、度重なる水田耕作に伴う地下げで大半の遺構が消滅しており、溝状遺構・自然河川等が検出されたにすぎない。ただ、自然河川の埋土上面で獸足の痕跡が数多く検出されたことは大きな成果であった。

国分寺六ツ目古墳は、国分寺町域で初めての前方後円墳であることが確認され、主体部も3基検出された。副葬品は余り多量ではなかったが、鉄器のほか古式土師器が墓壙内及び墳丘周辺で確認されたことは大きな成果であった。

国分寺六ツ目遺跡では、縄文時代と考えられる石器の製作跡等を確認することが出来た。

中間西井坪遺跡では、弥生時代末～古墳時代初頭・古代・中世・近世と幅広い時代の集落跡及びこれに伴う土器等の遺物が大量に出土した。

以上のように多くの成果を得たが、詳細については今後の整理をへて明らかにしていきたい。

2. 遺跡別発掘調査結果の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
龍川五条遺跡	普通寺市原田町	12,300m ²	平成元年6月26日 ～2年3月31日	弥生時代墓・ 堅穴住居跡・溝	弥生土器・須恵器・土師器
龍川四条遺跡	普通寺市原田町 木徳町	18,200m ²	平成元年7月1日 ～2年3月31日	古代掘立柱建 物跡・自然河 川・溝	繩文土器・須恵器・土師器
三条番ノ原遺跡	丸亀市三条町	1,300m ²	平成元年4月10日 ～2年3月31日	弥生時代堅穴 住居跡・古代溝	弥生土器
郡家原遺跡	丸亀市郡家町	2,600m ²	平成元年4月10日 ～2年3月31日	古代掘立柱建 物跡・溝	須恵器・土師器
郡家一里屋遺跡	丸亀市郡家町	6,450m ²	平成元年4月10日 ～2年3月31日	古代溝・自然 河川	弥生土器・須恵器・土師器
川西北・ 鍛冶屋遺跡	丸亀市川西町北	12,208m ²	平成元年4月10日 ～同年8月11日	中世掘立柱建 物跡・溝・自 然河川	須恵器・土師器・近世陶磁 器
飯野C・D・E遺跡	丸亀市飯野町	300m ²	平成2年3月1日 ～2年3月31日		
飯山一本松遺跡	綾歌郡飯山町	2,200m ²	平成元年4月17日 ～同年5月16日		弥生土器・須恵器・土師器
綾南奥下池南遺跡	綾歌郡綾南町	2,900m ²	平成元年5月22日 ～同年7月24日	須恵器窯跡	須恵器
国分寺下日名代 遺跡	綾歌郡国分寺町 福家	11,350m ²	平成元年8月19日 ～2年2月28日	弥生時代溝・ 水田跡・動物 足跡	弥生土器・須恵器・土師器
国分寺六ツ目古墳	綾歌郡国分寺町 福家	900m ²	平成元年9月1日 ～同年12月28日	前方後円墳・ 主体部3基	鐵器・古式土師器
国分寺六ツ目遺跡	綾歌郡国分寺町 福家	5,600m ²	平成元年10月1日 ～2年2月28日	中近世建物跡	石器・弥生土器・近世陶磁 器
中間西井坪遺跡	高松市中間町	11,600m ²	平成元年8月19日 ～2年3月25日	弥生～近世建 物跡・溝・土 坑	弥生土器・須恵器・土師器
計		87,908			

国道バイパス建設に伴う発掘調査概況

1. 概況

高松市上天神町から同市前田東町をむすび、現海岸線から約4.5km南の高松平野奥部を東西に貫く一般国道高松東道路建設に伴う発掘調査は2年目を迎えた。今年度の発掘調査は、香川県教育委員会との間に平成元年4月1日付および、平成2年3月13日付でそれぞれ締結した「埋蔵文化財調査委託契約書」および、「埋蔵文化財調査委託契約書の一部を変更する契約書」にもとづき、太田下・須川遺跡と前田東・中村遺跡の2遺跡での財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。

太田下・須川遺跡の調査は、一般国道193号の東側で実施した。当該地は、海拔15m前後をはかり、西から東にむかってゆるやかに傾斜している。調査は西から東にむかって、A～Iの9調査区にわけておこなったが、調査着手前の状況は水田地帯であった。今回の調査の成果のひとつは、從来不明な点多かった当該地の弥生時代から古墳時代にかけての環境を知る資料が増加したことである。

まず、弥生時代の遺構として、自然河川跡、竪穴住居跡等を検出した。いずれも弥生時代後期を中心とした時期のものであると思われる。現在の地表に現われない流路を多數確認したが、B調査区の自然河川跡から鹿の線刻のある土器の破片が出土した。当時の祭祀の一端をうかがわせる貴重な資料である。また、H・I両調査区からは、同じく弥生時代後期ごろのものと考えられる自然河川を検出し、鍛等の木器が多量の土器と共に出土した。この周辺に同時期に生活の場があったことが推測される。

つぎに、古墳時代後期を中心とする時期の遺構として、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、自然河川跡等を検出している。竪穴住居跡、掘立柱建物跡は、G調査区で検出した南北に流れる自然河川跡の西側にかたまって位置していることから、周辺には集落の存在していた可能性がある。

今回の調査では、奈良・平安時代の明確な遺構は確認できなかったが、B地区の自然河川跡から古代末の土器と共に斎串・人形等を検出しており、周辺においてなんらかの祭祀がおこなわれていたと考えられる。

前田東・中村遺跡の調査は、三木町との市町境にあたる高松市前田東町で昨年度に引き続き実施した。昨年度の調査は当遺跡の東端部でおこなっているが、さらに西にむかって調査を進め、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物を検出した。

弥生時代終末期の良好な土器群をG調査区の河川跡から多量に検出した。この周辺地域に同時期の集落跡の存在が予想される。

つぎに、奈良～平安時代の遺構を検出した。そのうち、建物群とその構成が確認できたことは今回の調査の大きな成果のひとつである。E-3調査区とE-5調査区で見られたように、同じ主

軸方位をもつ掘立柱建物と溝状遺構、また生活を裏付ける井戸跡が明確に検出でき、当該期の土器もまとめて出土した。さらに、遺物は検出できなかったものの、平窓を1基検出した。今後の調査の進展によって、この地域の古代の様相が、より明確になると思われる。

その他、百濟系の単弁軒丸瓦と思われる特徴のある軒丸瓦を数点検出した。この瓦は、当遺跡の北側約500mに所在する宝寿寺跡から出土したとされ、白鳳時代と考えられる瓦と同文であり両者の関係が注目される。

また、E-3調査区やE-5調査区で検出した建物跡の主軸方位は、山田郡の推定の条里方位にほぼ一致している。以上のことからも前田東・中村遺跡一帯は古代律令制の中で繁栄した重要な場所でもあったと考えられる。

2. 遺跡別発掘調査結果の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物	
太田下 ・須川遺跡	高松市太田下町 同 三条町 同 伏石町	24,170m ²	平成元年4月1日 ～2年3月31日	豊穴住居跡 掘立柱建物跡 溝状遺構 土坑 ピット 自然河川	土器 弥生土器 土師器 須恵器 黒色土器 石器 石庖丁 石鎌 石斧	木器 鍛 横幅 桶 不明木製品 木製模造品 人形 斎串
前田東 ・中村遺跡	高松市前田東町	9,320m ²	平成元年4月1日 ～2年2月28日	豊穴住居跡 掘立柱建物跡 溝状遺構 土坑 ピット 井戸跡 自然河川 窓跡	土器 弥生土器 土師器 須恵器 黒色土器 瓦器 瓦 軒丸瓦 平瓦	石器 石庖丁 石燃 石斧 木器 建築部材 井戸枠 不明木製品 曲物 木製模造品 斎串 鉄器 鉄斧
計		33,490m ²				

調査対象遺跡位置図



香川県埋蔵文化財調査年報
平成元年度

平成2年3月31日 発行

編集 香川県教育委員会事務局文化行政課

高松市番町4丁目1番10号

電話 (0878) 31-1111

発行 香川県教育委員会

印刷 協成光社